

令和 6 年 度
事 業 報 告

令和 7 年 5 月
公益財団法人 群馬県青少年育成事業団

目 次

I 法 人 の 概 況

	頁
1 設立年月日	1
2 定款に定める目的	1
3 定款に定める事業内容	1
4 主務官庁に関する事項	1
5 主たる事務所・事業所の状況	1
6 役員の役割等に関する事項	1
7 職員に関する事項	2
8 事業団組織図	2

II 事 業 の 概 況

1 事業一覧表	3
(A 指定管理事業 B 自主事業 C 受託事業)	
A 指定管理事業	
(1) 青少年等の活動場所の提供事業	8
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	14
(3) 青少年の交流・体験活動事業	22
(4) 青少年団体の育成及び指導事業	40
(5) 情報収集・情報提供システム事業	52
B 自主事業	
(1) 青少年活動支援事業	56
(2) 地域連携協力事業	58
(3) 広報事業	60
(4) 補助事業	62
C 受託事業	
青少年自立・再学習支援事業	63
2 重要な契約等に関する事項	67
3 役員会等に関する事項	69

事業報告

I 法人の概況

1 設立年月日
昭和56年11月16日

2 定款に定める目的

この法人は、設立の趣旨を踏まえて、青少年の健全育成に関する諸事業及び青少年団体の育成並びにその事業を行う施設の管理運営を行い、もって本県の次代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成を目的とした企画事業
- (2) 青少年及び青少年団体が行う主体的、自主的な活動の支援
- (3) 青少年団体の育成及び助言並びに研修の実施
- (4) 青少年の健全育成に関する資料の収集及び情報の提供
- (5) 青少年の健全育成に関する相談事業
- (6) 青少年の健全育成に関する調査研究
- (7) 青少年の健全育成に関する施設等の管理運営の受託
- (8) その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

4 主務官庁に関する事項

群馬県生活こども部県民活動支援・広聴課 公益法人係

5 主たる事務所・事業所の状況

- (1) 財団事務局：群馬県前橋市荒牧町2番地12 群馬県青少年会館内
- (2) 事業所：群馬県青少年会館

6 役員の役割等に関する事項（令和7年3月31日現在）

- (1) 評議員（6名）
任期：令和5年6月16日から4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで)

(あいうえお順)

氏名	常勤・非常勤の別
栗原ウメ子	非常勤
小林昭紀	〃
星野貴俊	〃
森谷健	〃
山田和豊	〃
吉川真由美	〃

評議員は、評議員会を構成し、法令及び定款で定める事業団の基本的事項を意思決定する。

- (2) 理事（9名）
任期：令和5年6月16日から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで)

(理事：あいうえお順)

職	氏名	常勤・非常勤の別
理事長 (代表理事)	太田大森	非常勤
副理事長	大川由明	非常勤
常務理事 (業務執行理事)	中村洋	常勤
理事	青木美幸	非常勤
理事	大澤京子	非常勤
理事	齊藤千春	非常勤
理事	櫻井常矢	非常勤
理事	関口利美	非常勤
理事	富澤香	非常勤

理事は、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより、職務を執行する。

理事長は、事業団の代表理事として、理事会の決定に基づき業務を統括し、業務を執行する。(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事)

副理事長は、理事長に事故あるとき又は欠けたときは理事長の職務を執行する。

常務理事は、理事長及び副理事長を補佐して業務を処理し、理事長及び副理事長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。(一般社団法人及び一般財団法人に関する法第197条において準用する第91条第2号の業務執行理事)

(3) 監 事（2名）

任期：令和5年6月16日から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで）

氏 名		(あいうえお順) 常勤・非常勤の別	
田 口 紀 雄		非常勤	
竹 内 努		非常勤	

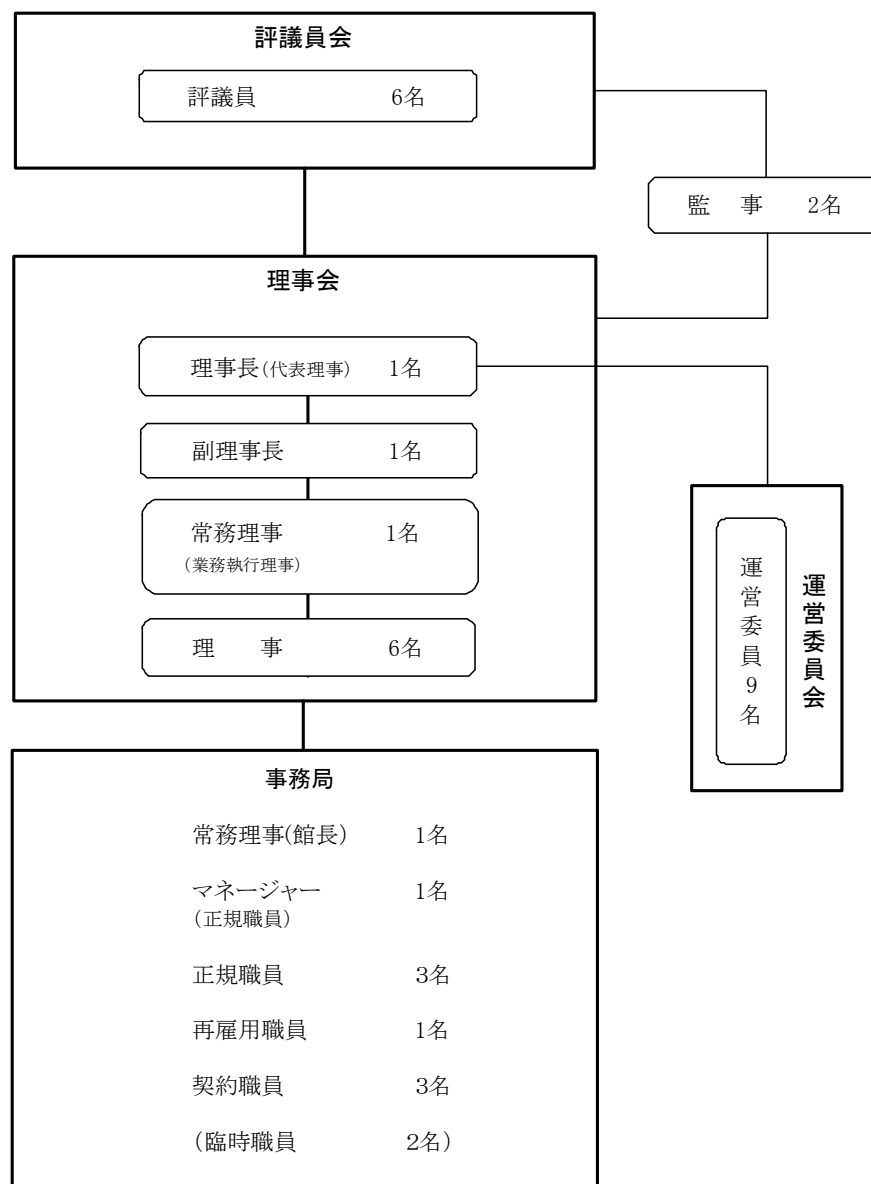
監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

7 職員に関する事項（令和7年3月31日現在）

職 員		契約職員		合 計			平均 年齢	平均 勤続年数
男	女	男	女	男	女	計		
3	1	1	2	4	3	7	47歳	12年

注 非常勤職員を除く

8 事業団組織図



Ⅱ 事業の概況

A 指定管理事業

事業名		趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年等の活動場所の提供事業		青少年会館の管理・運営をとおして、青少年及び青少年団体の自主的かつ創造的な活動の場を提供し、青少年の健全育成に寄与する。	青少年の活動場所提供、会館の施設設備等維持管理、予約システムの運用、施設利用の承認事務、施設利用料収納事務、広報事務、安全管理業務、職員研修、会計経理給与事務、その他管理運営に必要な業務	通年	- Web、Twitter（現 X）の発信の重点 - 大学生世代の会館利用促進を目的とした漫画、ボードゲームの設置 - 本館 3 階ランドリーの開設、ロビーのフリー Wi-Fi 更新等、利用者の利便性を高める改善等
青少年健全育成事業		趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	① 中学生・高校生交流ボランティア体験	中高生のボランティア活動を支援・推進するための環境整備として、活動の機会や場の提供に努める。そのため、中高生にボランティア入門として基礎的な知識習得の研修講座を行うと共に、実践活動を通じた参加者同士の交流を図る。	- ボランティアに関する基礎的知識の習得 - ボランティア体験の実施 - 参加生徒同士の交流 - 講座修了者に他事業でのボランティア活動の機会を年間を通して計画的に提供	講義 7/6(土) ボラ活動の実践 7/7(日)	- ボランティア活動に初めて取り組む中高生が安心して実践できるよう、事前研修の充実を図った。 - 研修で得た知識を、施設ボランティア「会館友の会」との共催事業で活動実践し、講師を務める大学生から中学生・高校生に助言した。
	② 若者ボランティアフェスティバル 【新規事業】	既存団体の地域活動やボランティア活動の認知度向上と若者による事業継承を目指し、関係機関や団体指導者と協働で若者のボランティア活動促進をテーマにした交流活動を企画、実施する。	- 市町村社会福祉協議会や県内関係機関との幅広い連携 - 各機関と協働関係にある団体等に協力依頼するとともに団体指導者参画による若者ボランティア参加プログラムの企画 - 関係機関、団体、若者ボランティアでつくる交流事業の開催	事前研修・会場準備 2/22(土) 開催 2/23(日)	- 既存のボランティア団体より、日ごろ団体で活動しているノウハウを高校生ボランティアに伝え、活動を継承する機会を提供することができた。 - 様々なボランティア団体が一堂に会して実施したため、団体同士の交流や情報交換の場になった。
	③ 学生地域貢献活動参画推進事業(大学生と初めてのダブルダッチ体験会) 【新規事業】	大学生や専門学校生によるボランティア活動及び地域貢献活動を助言、後援、共催等で支援する。	- 大学や専門学校への訪問による学生サークル等の発掘 - 学生の主体的活動を引き出す対話と実現に向けた協議 - 学生と協働した事業やプログラムの実施 - 研修、活動場所、会議室提供	9/21(土)	- 群馬大学ダブルダッチサークル Rally の企画やアイデアをプログラムの中で生かし、小学生が気軽に体験できるように内容や時間を工夫して実施した。 - 大学生も共催事業に達成感や満足感があり、次年度も事業実施の要望があった。
	④ 体験活動・ボランティア活動支援センター	青少年及び指導者のボランティア活動の情報を収集し、活動を希望する青少年とそれを必要とする学校や青少年団体を結びつけ互いの活動の活性化を図る。	- ボランティア活動に関する情報収集と提供 - 活動希望者と希望者を受け入れる学校・団体との連絡調整 - 会館事業でのボランティア活動の紹介	通年	- 県が運営するサイト「ボラスルン」に登録して、ボランティア活動・体験活動を希望する個人や団体に情報を提供し、活動の促進を図った。 - 県や前橋市が主催する中間支援センター研修会に出席し、事業の PR を行った。

(3) 青少年の交流・体験活動事業	⑤ 心のバリアフリー事業 (ふれあいゆうあい交流フェスタ)	障がいのある人となない人がともにふれあい、互いに理解し合える場づくりに向けて、障がいのある子どもを支援する団体や青少年団体関係者等と協働で実施する。	・障がい児の活動を支援する団体等との連絡調整 ・団体指導者、青少年団体会員が参画する対話の場の設置 ・プログラム充実に向けた新たな協力団体の受入と参加協力団体の拡大	事前研修・会場準備 10/19(土) 開催 10/20(日)	・コロナ禍以前に近い規模で開催し、ボランティア・スタッフ・来場者を合わせると 800 名を超え、会場は活気が溢れていた。 ・昨年度まで実行委員会形式で実施していたが、新規団体が気軽に参加できるよう、今年度は協力団体が主体となるミーティング形式でプログラム内容等について意見交換した。
	⑥ 親子ふれあい体験教室	ものづくり等、親子共同作業を通して、親子や参加者同士のふれあいを深める。また、レクリエーションによる交流を図る。	・親子でのものづくり(1 日目木工・2 日目自然クラフト等) ・交流レクリエーション ・児童の集団宿泊体験 ・高校生ボランティアの受入と参加者との交流	7/20(土) 7/21(日)	・令和元年以来となる宿泊ありの日程で、1 日目はレクリエーションと木工作品制作、2 日目は自然の素材を活用したネイチャークラフトを行った。 ・協力して作業をすることで、親子でふれあい絆を深める機会にすることができた。
	⑦ 高校生写真講座	群馬県高等学校文化連盟写真専門部と連携して企画立案を行い、グループ活動による撮影や制作を通じた参加者の交流を図る。また、撮影に関するモラルや技術を高める機会を提供する。	・写真撮影を通しての交流 ・デジタルカメラの基礎知識、技術の習得 ・グループワークによる組写真の制作 ・講座修了者に他事業での撮影ボランティアとして活動する機会を提供する。(撮影画像は館報や SNS にも活用)	6/15(土)	・プログラムの内容を初心者、経験者の 2 コースにわけて開催し、参加者の撮影スキルやニーズに合った内容にすることができた。 ・経験豊富な外部講師を招き、基礎知識の習得や写真制作をより上達できるよう支援した。
	⑧ 交流文化体験	海外や日本の伝統的な遊びやクラフト等を通して、多様な文化に触れる機会を設けるとともに、児童及び留学生、ボランティアによる異年齢交流を行う。	・海外の特色あるクラフトやダンス、日本の伝統芸能や昔の遊び等の体験 ・高校生ボランティアの受入と参加者との交流	6/29(土) 6/30(日)	・留学生が企画したプログラムは、小学生が積極的に参加しようとする姿勢を感じることができた。 ・日本の伝統芸能体験では、人形浄瑠璃で実際に使用する人形を操作する体験ができ、参加者にとって有意義なものとなった。
	⑨ 高校生と小学生の夏休み交流活動(夏だ! 書道だ! おもしろ筆だ!)	高校生の部活動や委員会に小学生の体験教室に関わる機会を提供し、事業を通じてボランティア活動の達成感を感じてもらうとともに、年少者を思いやる心を育む。	・高校生と児童の異年齢交流プログラム ・高校生の部活動、委員会単位でのボランティア体験 ・高校生によるプログラム企画を支援し、社会教育への参画の機会を提供	8/1(木)	・市立前橋高校の書道部有志と協働でプログラムを立案した。 ・高校生が考案したプログラムは小学生の興味関心を深める構成になっており、自分達で企画した事業を実施することにより、社会貢献できる喜びを味わうことができた。
	⑩ 小学生ドローン体験 【新規事業】	ドローンの操縦を体験するとともに正しいルールやマナーを学ぶ。また操作を通して参加者同士の交流を行う。	・ドローンの操縦体験 ・ルールとマナーの学習 ・ドローンを使った仕事や活用事例の紹介 ・交流活動 ・高校生ボランティアの受入	8/7(水)	・昨年、県内の青少年施設向けに実施した「広報のためのドローン講習会」をもとに、小学生も楽しめる内容にアレンジした。 ・講義は難しい内容を避け、動画等も交えて視覚的にドローンについて学べるようにした。

	⑪ 小学生イラスト講座	マンガ家やイラストレータ等からイラストの描き方を学び、互いの作品を鑑賞する。	- イラストの描き方、道具類の使い方の学習 - イラスト等に関連するの職業の紹介 - テーマに沿った製作活動	8/21(水) 8/22(木)	- 専門学校の教員を講師として招き、イラスト制作における基礎的な知識や技法を小学生に指導した。 - 初日に自己紹介をする時間を設け、講師や小学生、高校生ボランティアが互いに打ち解けあうことができた。
	⑫ 企業コラボ体験活動 【新規事業】	県内企業の協力を得て小学生を対象とした体験活動を提供するとともに、働くことについて考える機会とする。	- 企業と連携したプログラムの立案 - 企業の特性を生かした体験活動やクラフト等の実施	(ア) わくわくメガネを考えよう 7/31(水) (イ) 青少年会館のみんなとあそぼう！ 8/17(土)	(ア) ジンズパークの協力を得て、小学生一人ひとりのアイデアを盛り込んだ、製品の企画体験を行った。 (イ) ジンズパークの屋内外で団体ごとの体験活動ブースを出展し、青少年に体験活動の機会を提供した。
(4) 青少年団体の育成及び指導事業	青少年団体活動支援事業 ⑬ 夏休み宿題お助け隊 ⑭ 夏休み子ども茶道教室 ⑮ おやこで茶道教室 ⑯ 目指せ！ギネス記録紙飛行機づくりとオリジナルスノードームづくり ⑰ ボランティアのつどい	青少年団体の振興、育成のため、各青少年団体との連携を一層深めるとともに共催事業や連携事業を企画、実施する。これらの事業をとおして各青少年団体の更なる活性化、指導力の向上を支援するとともに、新たな団体、サークル等の発掘に努める。	- 青少年団体の情報収集 - 青少年団体が主催する事業の支援・共催（年4回程度を見込み、さらなる支援や共催の機会があるときは状況に応じた連携・協力を行う。） - 群青連協加盟団体に担当配置 - 高校生ボランティアの受入と団体会員、参加者との交流 - 既存の青少年団体に加え、学生サークルや青年グループ等まで対象を広げ、活動の助言とともに連携・協働を図る。	(ア) 夏休み宿題お助け隊 8/3(土) 8/4(日) (イ) 夏休み子ども茶道教室 8/18(日) (ウ) おやこで茶道教室 12/8(日) (エ) 目指せ！ギネス記録紙飛行機づくりとオリジナルスノードームづくり 1/26(日) (オ) ボランティアのつどい 3/8(土)	(ア) 定員を大きく上回る応募がきたため、例年よりも定員数を増やしニーズに応えた。 (イ) お茶を飲み比べ、点て方によって味が変わることを感じていただけるプログラムとした。 (ウ) 茶道に関するテキストをふりがなやイラスト等を交えてリニューアルし、参加者へ配布した。 (エ) 新規でオリジナルスノードームづくりを企画したところ、応募人数が大幅に増加した。 (オ) プログラムのテーマを運動会と定め、児童を6班に編制した。競う班はブースごとに異なるよう配置した。
	⑱ 地域団体応援事業(性教育フェスタ) 【新規事業】	青少年育成団体に活動拠点として青少年会館の利用を推奨するとともに活動を推進するため、支援及びプログラム立案を助言する。また、既存の青少年団体との協働をコーディネートし、相互の連携関係を築く。	- 県内にある青少年育成団体や指導者団体の情報収集及び関係者との対話によるニーズや活動課題の把握 - 他団体との連携の支援 - 青少年会館事業の理解促進と協力関係の構築 - 青少年会館を活用した活動場所の提供やプログラムの提案	9/23(月)	主催団体(性教育推進プロジェクト)が、昨年度の課題として挙げていた広い会場確保の対策として、青少年会館1階・2階の全ての部屋を講演・各ブースの会場(8会場)として使用した。性教育講座、体験、ワークショップを行った。
(5) 情報収集・情報提供システム事業	⑲ ぐんま青少年ねっと	ホームページ・ブログ・SNSにより青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信し、周知を図る。また、学習コーナーの利用者がインターネットを利用できる機器を貸し出し、青少年の自己学習や情報収集を支援する。	- 会館運営、事業開催情報の提供 - ホームページの更新とSNSの有効な運用 - 学習情報コーナーの設置（無料Wi-Fiエリア内） - 事業に関するデータベースの管理と運用	通年	- 今年度からInstagramを開設した。他の媒体と並行して主催事業、施設利用、館内の様子などについての情報を発信した。 - 昨年度までと比較し、より接続手順が簡単なフリーWi-Fiを設置した。
	⑳ 青少年活動事例調査	青少年の課題やニーズを把握するとともに、指導者の情報や他施設の利用事例などを収集する。	- 青少年の地域活動やボランティア活動の視察 - 他施設の体験活動及び研修の情報収集や参加	通年	eスポーツに関する講座への参加、学習室の視察など、幅広い情報を収集できた。

B 自主事業

事業名		趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年活動支援事業	① 青少年会館友の会事業	会館を拠点とする「青少年会館友の会」に、青少年健全育成事業の指導者として施設ボランティア・事業ボランティアの活動の場を提供するとともに、共催により友の会が企画する児童の体験活動の実施を支援する。	・ゆめすくーる（小学生対象の体験教室） ・会館事業へのボランティア参加	通年（活動支援） ゆめすくーる 10/13（日） 10/27（日） 11/17（日） 12/15（日）	・指導者養成ユニットは、イベントでバルーンアートの作品づくりを提供する等、活躍の場が増えた。 ・共催の「ゆめすくーる」は、今年度から事業担当の職員が一部の事務作業を補佐した。
	(2) 地域連携協力事業	市町村や県内団体及び学校等の事業と連携し、ニーズに対応した体験活動や研修を受け入れたり、県内で開催されるイベント等に参加したりして、地域との連携を図る。	・学校等からの施設見学や職場体験への協力 ・社会教育施設及び青少年団体等が主催するイベント等へのブース出展及び運営協力 ・県内ボランティア団体が主催する教育プログラムの共催協力	(ア) 体験の風をおこそう運動協力 実行委員会 6/5（水） 3/5（水） スマーク伊勢崎出展 2/24（月） (イ) 荒牧小学校対応（町たんけん） 5/29（水） (ウ) 社会教育実習等 群馬大学 1/19（日） (エ) 高校生短期インターンシップ受け入れ 前橋商業高校 10/24（木） 10/25（金） (オ) ライオンズクエスト 薬物乱用防止委員会 事前打合せ 7/9（火） ライオンズクエスト ワークショップ 12/25（水）	(ア) 出展では体験活動プログラム提供と合わせてリーフレットや事業チラシを配布し、PR 活動を行った。 (イ) 来館した児童に館報やチラシで夏季実施の事業を周知した。 (ウ) 事業や施設案内を通じて、学生から館内の印象や参加したい事業について感想を聞き取りした。 (エ) 会館内での作業のほか、プログラムの理解のためクラフトを体験させた。 (オ) 近隣の学校を訪問するなど、事業説明を強化した。
(3) 広報事業	③ 新年交歓会	青少年教育行政関係者や青少年団体関係者等が一堂に会し、青少年健全育成について情報交換を行うとともに、群馬県青少年会館及び公益財団法人群馬県青少年育成事業団の諸事業を広報し、その理解促進を図る	・情報交換会 ・事業パネル展示、動画映写 ・リーフレットや館報の配布 ・青少年団体の協力によるおもてなしプログラム	1/18（土）	・出席者同士の交流を深める機会として、歓談の時間を設けた。 ・ステージの出演団体は、青少年会館の施設利用団体・主催事業に参加した団体を選出した。
(4) 補助事業	④ 団体補助	団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く5団体へ補助金を交付する。	・事務局運営用補助金の交付（4万円×5団体）	—	—

C 受託事業

事業名		趣 旨 ・ 目 的	事 業 内 容	実施時期	過年度の改善点等
(1) 青少年自立・再学習支援事業	① G-SKY Plan	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなど、生活を充実させ、不登校やひきこもりからの脱却や社会的自立を支援する。また、高校中退者の再学習のための相談・支援体制の充実を図り、各種情報の提供を行う。	・コーディネーターの配置 ・青少年とその保護者・学校からの相談対応 ・体験活動受入事業所等の情報収集、連絡調整 ・体験活動のコーディネート ・再学習支援のための各種情報の収集、提供	通年（相談・面談・体験） 合同会議（4回） 4/12（金）、7/11（木） 12/6（金）、3/6（木） 進路相談会（2回） 8/25（日）、10/26（土）	・東毛地区の利用が少ないため太田市の中学校校長会お邪魔し、事業説明を行った。 ・進路相談会では10校の参加を頂いたが、公立通信制高校2校で8月の参加が難しい状況であった。改善策として実施曜日を検討することとなった。 ・ステップアップ支援促進事業との連携を深めるため、自立・再学習支援会議を月1回開催した。
	② 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業	高校中退者等を対象とした学び直しのための支援を行う。高校卒業程度認定試験等に関わる相談及び情報提供と希望者に応じて会館での学習支援を行う。	・学習相談 学びに応じた教科書や副教材の紹介、高卒認定試験の紹介、教育機関や修学のための経済的支援の紹介等 ・学習支援 青少年会館を活用し、高卒認定試験等の受験を目指す学習者に対して個別に学習支援を行い、学習者の自立を促す。	学習相談・支援等 4～3月 学習会 60回	・G-SKYPlanとの連携を深めるため、自立・再学習支援会議を月1回開催した。 ・学習相談者の受験科目に対応し、ワークブック、過去問題集、教科書を準備し、一層の活用を図った。 ・特に令和6年度からの試験科目変更に伴い、地理歴史公共の教科書は有効であった。

A 指定管理事業

(1) 青少年等の活動場所の提供事業

群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）の設置目的・業務に添った運営を行うべく、施設の利用については、青少年の育成に関する諸事業並びに青少年及び青少年関係団体、学校等の自ら企画した事業等の活動場所の提供事業と位置づけ、当事業団の公益目的事業として運営を行った。

- ・設置目的

青少年団体活動の振興及び青少年の健全な育成を図るため設置

（群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）第2条）

- ・業務

青少年の健全な育成を推進するための業務、青少年団体の育成

（設管条例第2条の2）

- ・施設概要

敷地面積：8,862㎡

建築延べ面積：3,676㎡（本館2,746㎡ 新館930㎡）

- ・指定管理期間

令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）

- ・管理運営体制

- a 組織体制

事務局の責任者は常務理事（館長）とし、昨年導入したマネージャー制を継続した。

マネージャー1名、正規職員3名、再雇用職員1名、契約職員3名、臨時職員2名

- b 職員の資質、知識向上

職員対象の全体会議、利用者対応に関する研修、安全管理訓練、他施設との合同研修の参加等、内部、外部の研修・訓練等により職員の資質向上に努めた。

① サービス向上の取り組み

ア 接遇研修

講師：株式会社アクロスプラン

テーマ：接遇・電話対応ブラッシュアップ研修

概要：利用者サービス向上のため、事業団職員に窓口業務に必要な接遇の研修を実施する。

イ 受付対応と業務マニュアル等の見直し

予約システムから一部会議室の予約を受付可能とし、会議室利用の利便性を高めた。

職員が業務を適正に処理できるよう、宿直、B勤務、C勤務の各マニュアルを適宜修正した。

ウ 平等、公平な利用者サービスの提供等

施設予約の受付期間と受付時間を遵守し、平等、公平な受付業務を引き続き実施した。

接遇研修の学びを生かし、おもてなしの心、サービス精神を持って対応を心がけた。



接遇研修

エ 職員間の情報の共有化

毎月始めに理事長、常務理事、マネージャーによる月例運営会議で理事長からの指示、業務の進捗等を確認した。また、全職員が業務に関する情報を共有するため、月1回の全体会議を行った。また、毎日の業務開始時に朝の会を行い、当日の利用団体や事業に関する情報を共有した。

また、交代勤務の中で各職員が毎日の状況を把握するために、事務室内に業務日誌を常備し、行事・修繕・点検・苦情と要望を記録した。

オ アンケートや聞き取り調査等の実施とフィードバック

事業参加者のアンケート様式を見直し、ねらいの達成度、交流の状況、情報の入手先等、選択式にして集計した。また事業の感想は記述のみに頼らず、担当職員等が参加者から直接聞き取りを行うなど工夫した。施設利用者には、毎回、代表者へアンケート記入を依頼した。また、館内に投稿箱とアンケート用紙を常備し、意見を受け付けた。

アンケート等での苦情、要望等で改善可能なものは速やかに対応・改善した。また、フィードバックは受付やWeb等でお知らせした。

※主な対応内容

要望：部屋の場所が分かりにくい。

対応：各宿泊室のファイルに館内図を追加した。

要望：脱衣所が寒い。

対応：脱衣所にオイルヒーターを導入した。

カ 外部研修の参加や情報収集の実施

青少年健全育成事業の企画力・技能向上に関する外部研修等に出席し、スキルアップを図るとともに他施設の状況や社会教育の最新情報の収集に努めた。

「社会教育主事主事等職員研修会」 群馬県庁 4名

「社会教育推進セミナー」 群馬県生涯学習センター 3名

「社会教育実践研修」 群馬県生涯学習センター 1名

「社会教育関係職員ステップアップ講座(eスポーツで講座を作ろう)」

中部教育事務所 1名

「働きやすさと働きがいとを起点とした強い会社の『人を大切にする』経営」

群馬産業技術センター 3名

「フロン排出抑制法に関する研修会」 オンライン受講 1名

「刈払機取扱作業安全衛生教育」 コマツ教習所 2名

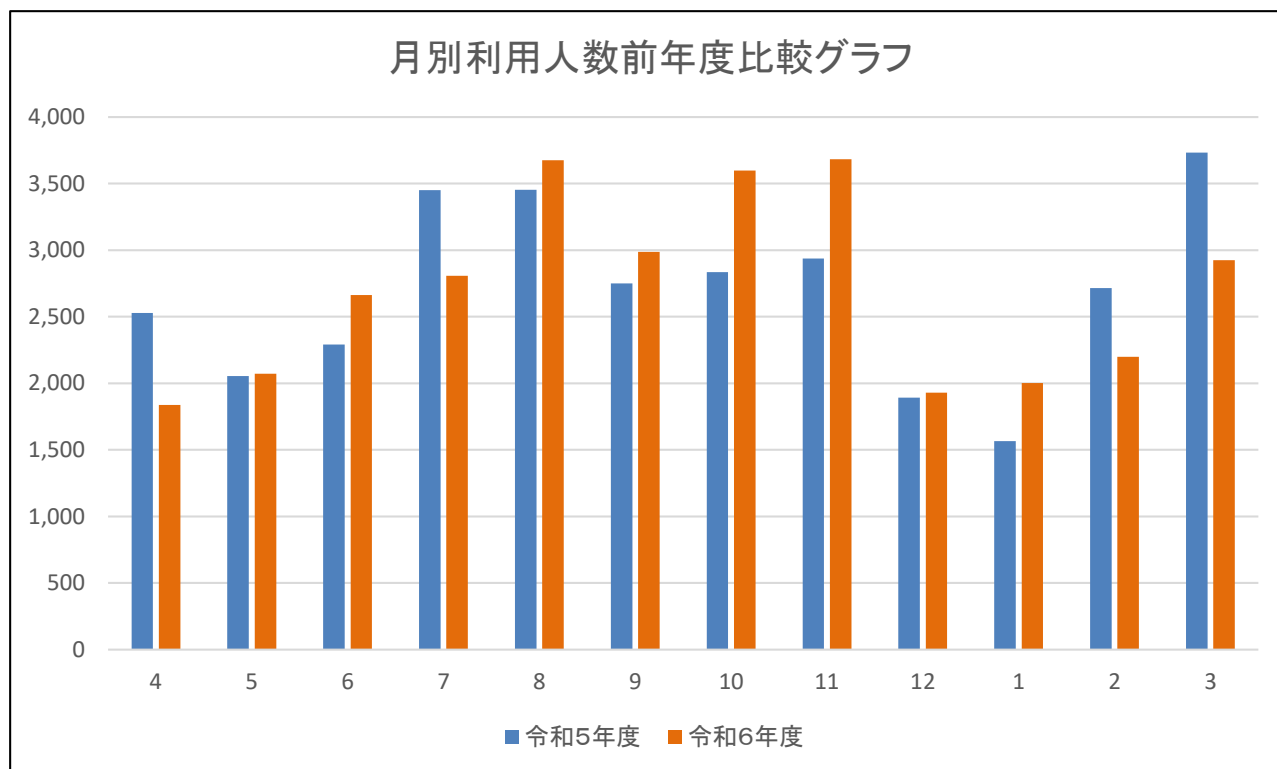
「全国まちづくり若者サミット」 日本青年館 2名

② 年間利用集計

ア 利用人数

令和6年度月別のべ利用人数実績(前年度比較)																	
月	令和5年度 (A)						令和6年度 (B)						比 較 (B) - (A)				
	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	対前年比	団体数	利用人数	団体数	利用人数
4	95	2,387	2	142	97	2,529	70	1,509	8	329	78	1,838	72.7%	△ 25	△ 878	6	187
5	78	1,551	9	504	87	2,055	70	1,549	9	523	79	2,072	100.8%	△ 8	△ 2	0	19
6	78	2,044	4	246	82	2,290	88	2,290	7	372	95	2,662	116.2%	10	246	3	126
7	89	2,444	16	1,006	105	3,450	80	1,822	13	986	93	2,808	81.4%	△ 9	△ 622	△ 3	△ 20
8	73	2,168	23	1,284	96	3,452	78	1,936	28	1,738	106	3,674	106.4%	5	△ 232	5	454
9	109	2,509	6	240	115	2,749	82	2,530	13	456	95	2,986	108.6%	△ 27	21	7	216
10	80	2,632	6	203	86	2,835	79	3,254	10	344	89	3,598	126.9%	△ 1	622	4	141
11	102	2,866	3	72	105	2,938	85	3,219	10	462	95	3,681	125.3%	△ 17	353	7	390
12	76	1,479	10	414	86	1,893	63	1,518	13	412	76	1,930	102.0%	△ 13	39	3	△ 2
1	64	1,408	3	158	67	1,566	64	1,809	6	194	70	2,003	127.9%	0	401	3	36
2	80	2,134	12	582	92	2,716	81	1,866	7	332	88	2,198	80.9%	1	△ 268	△ 5	△ 250
3	80	2,263	21	1,470	101	3,733	70	1,928	16	996	86	2,924	78.3%	△ 10	△ 335	△ 5	△ 474
計	1,004	25,885	115	6,321	1,119	32,206	910	25,230	140	7,144	1,050	32,374	100.5%	△ 94	△ 655	25	823

令和6年度の施設利用者数は、延べ32,374人(対前年度比100.5%)であった。



■前期

全体的に日帰りでの会議室利用が減少傾向にある。企業の出店に合わせた大口の利用が今年度は無かった事や、日帰りで連日利用していた高校の部活動が合宿に切り替えた事などが要因である。

宿泊利用に関しては増加傾向であり、特に夏休み期間は部活動やスポーツ団体の利用により、前年度の利用人数を更に上回った。

■後期

秋季は事業団事業（交流フェスタ等）や青少年団体のイベント等の開催により、利用人数が増加した。2月、3月は、幼児教室の大口の日帰り利用が今年度は無かった事や、部活動やスポーツ団体の宿泊利用が減少した事で、日帰り/宿泊利用ともに前年比減となった。

イ 利用料収入の実績

平成26年度より利用料金制が導入された。令和6年度は8,428,065円の利用料収入があった。

令和6年度月別利用料前年度比較 単位：円

月	利用料収入		
	令和5年度 (A)	令和6年度 (B)	(B) - (A)
4	466,080	405,580	△60,500
5	530,560	555,880	25,320
6	339,615	622,140	282,525
7	1,465,440	999,180	△466,260
8	1,157,600	1,379,740	222,140
9	715,800	625,270	△90,530
10	482,400	570,000	87,600
11	487,880	782,740	294,860
12	507,440	491,270	△16,170
1	326,820	337,600	10,780
2	757,190	608,520	△148,670
3	1,206,550	1,050,145	△156,405
合計	8,443,375	8,428,065	△15,310

ウ 広報、利用促進活動

- ・宿泊利用促進のために、Webページに宿泊室の紹介動画を掲載した。
- ・レストラン利用促進のために、Webページにレストランのメニュー例を掲載した。

- ・スクール形式以外のレイアウトでの会議室利用を促進するために、ブログに会館の利用団体の紹介を掲載した。
- ・企業の宿泊を伴う研修での利用を促進するために、Webページに社員研修の利用案内を掲載した。
- ・大学生世代の会館利用を促進するために、漫画とボードゲームを設置した。
- ・若年層向けの情報発信ルート整備のためにInstagramを開設し、ブログ・Xと並行して主催事業・施設利用・館内の様子などについて情報発信した。
- ・更新回数は、Webページ62回、ブログ34回、X197回、Instagram89回行った。
- ・館報、リーフレットを県内全域に配布した。
- ・会館のロゴを入れたクリアファイルを作成し、広報資料とともに配布した。
- ・マスコミに事業当日の取材を依頼した。

③ 環境整備及び修繕の取組

ア 環境整備

- ・職員が一日2回館内外を巡視する等、設備の確認や利用者の安全を第一に常に緊張感をもって管理を徹底した。
- ・居心地の良い雰囲気づくりに配慮し、七夕や節句に合わせて季節の飾りや花壇で育成した草花等を館内に飾った。また、栽培した苗の一部を利用者が自由に持ち帰れるようロビーに配置した。
- ・利用者が宿泊室から退出する際の清掃が容易になるよう、コードレス掃除機を設置した。
- ・指定管理仕様書の管理基準により関係法令を遵守し、施設設備の日常点検、保守管理等を実施した。
- ・年1回の備品総点検を行い、適正な管理に努めた。
- ・植栽管理は、年2回の業者委託の他、群馬県青少年団体連絡協議会や環境美化団体みどりの会と連携した清掃作業及び職員による日常的な除草作業、インターロッキングの草取作業を実施し、環境維持に努めた。

イ 設備修繕及び維持改善等

- ・経費節減のため、軽微な修繕はできるだけ職員で行った。また、既存設備のメンテナンスや修繕工具取扱いの注意事項についてベテラン職員が若手の職員へ指導した。
- ・修繕及び設備改修・メンテナンス等、次のとおり実施した。

【業者対応】

本館3階ランドリー工事および洗濯機乾燥機の導入、ロビーのフリーWi-Fi更新、消防設備修繕(ロビー誘導灯)、本館ドアクローザー交換およびドア枠補修、多目的学習室LED化、本館3階男子トイレ小便器漏水修理、多目的学習室椅子洗浄、新館エレベーター基盤およびインバーターユニット交換、新館1階天井窓ガラス交換

【職員対応】

玄関タイル補修、宿泊室ドアノブ修繕、宿泊室壁穴補修、宿泊室害虫駆除(燻煙剤)、新館給湯配管エア抜き、トイレつまり除去、多目的トイレ錠調整およびドア調整、十二条点検に係るドアクローザー調整、利用者貸出用プロジェクターの追加配備、会議室電球・蛍光灯交換



職員による花壇管理



ポット苗を利用者に配布



季節に合わせた飾り付け



本館3階ランドリー設備



駐車場及び敷地周辺の除雪作業



多目的トイレ鍵調整

④ 緊急時の体制・対応、防災、感染症対策

- ・1階出入口の非接触式体温計、館内各所の手指消毒用アルコール設置を継続した。
- ・消防署職員を講師に招きAEDを使用しての救急救命講習、警察署生活安全課職員を講師に招いての不審者対応訓練（防犯訓練）をそれぞれ1回実施した。
- ・入居青少年団体事務局とともに自衛消防隊を組織し、消防訓練を年2回実施した。その内の1回は消防署職員の派遣を依頼し、防災に関する専門的な知識を学んだ。



救命講習



消防訓練



防犯訓練

⑤ 青少年団体や地域住民等との連携

- ・寿楽園等の近隣施設や近隣学校と連携・交流を図った。
- ・荒牧町自治会と周辺地域に関する情報交換を行った。
- ・群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体の総会や会議に参加した。
- ・ライオンズクラブ国際協会333-D地区と連携して共催事業を実施した。
- ・前橋市の管理事務所に協力を得て、会館駐車場満車時にばら園駐車場を借りた。
- ・青少年会館友の会や群馬県青少年団体連絡協議会の協力で1階ロビーにクリスマス飾りや子どものクラフト教材（わくわく袋）を配置した。また連動して職員が遊びのコーナーを併設した。
- ・群馬県青少年団体連絡協議会、環境美化団体みどりの会と連携して敷地内の除草や清掃を行った。
- ・ザスパ群馬と連携し、試合日に合わせて青少年会館の駐車場を開放した。



群馬県青少年団体連絡協議会による会館清掃



環境美化団体みどりの会による除草作業



荒牧小学校の施設見学「まち探検」に協力

⑥ その他

ア 情報公開及び個人情報保護への取り組み

情報公開規程に基づいた情報公開及び個人情報保護規程、特定個人情報保護規程に基づいた個人情報保護を行った。

イ 法令遵守

諸規程整備等を実施し、法令に基づいた運営を実施した。

ウ 環境保全

- ・節電、省エネの取組を通年で実施し、利用者にも節電の協力を呼びかけた。
- ・夏期に建物内部の温度上昇を抑えるため、新館1階トップライト等に遮光ネットを設置した。
- ・冬季に新館の防火戸を閉め、暖房効率を上げる工夫をした。

エ 筆談ボードの導入

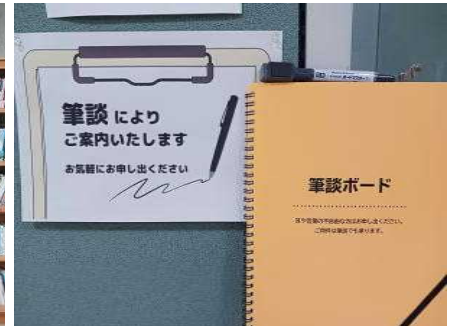
- ・聴覚障害のある利用者と円滑にコミュニケーションをとるための備えとして、窓口筆談ボードを導入した。



職員による遮光ネット取付作業



暖房効率を上げるため防火戸を利用



筆談ボードの導入

(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業

「中学生・高校生交流ボランティア体験」

1 事業目標

県内の中学生・高校生に対し、ボランティア活動に対する知識を伝授するとともに、活動の実践を通して交流を深める機会を提供する。また、ボランティアに対する意識啓発を行うことにより、継続した活動を推進する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年7月6日（土）・7日（日）

(2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の中学生・高校生 15名程度

(3) 参加状況

ア 【中高生ボランティア】参加者数（実人数） 22名、申込人数 25名（キャンセル3名）
 【ゆめすくーる mini】参加者数（実人数） 29名、申込人数 43名（キャンセル3名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		26	3	7	15			51

※「ゆめすくーる mini」（小学生が参加）は、ボランティア実践として当事業内で実施

イ 講師 14名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数） 22名×2日＝44名（中高生）

3 事業実施のポイント

- ① 研修で得た知識を当会館主催事業（青少年会館友の会アドバンスと共催）「ゆめすくーる mini」で活動実践し、講師を務める大学生から中学生・高校生に助言した。
- ② ボランティア活動に初めて取り組む中高生が安心して実践できるよう、事前研修の充実化を図った。
- ③ 受講をきっかけにボランティア活動を継続できるよう講義内容を工夫した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 6日 (土)		・開講式・諸連絡 ・コミュニケーションゲーム ・小学生への接し方伝え方 ・活動の始め方広げ方	
7月 7日 (日)	・諸連絡 ・活動の実践に向けて (ボランティア活動の 流れ・指導のポイント)	・ボランティア活動の実践 (「ゆめすくーる mini」 にて) ・ふりかえり ・閉講式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【講義の理解度】よくできた20、少しできた2、あまりできなかった0、できなかった0
 ・ボランティアについて知識を深め、子どもへの接し方を学べたため、当日は子ども達との交流に安心して参加できた。
 ・ボランティアの意義や活動内容を知る機会がなかったので、今回詳しく学ぶことができて貴重な経験になった

【小学生への補助】よくできた 18、少しできた 4、あまりできなかった 0、できなかった 0

- ・子ども達にさりげなくアドバイスするような形で直接介入せず、小学生自身に取り組んでもらうことができた。
- ・子ども達と会話をすることに對し、最初は緊張したが、徐々に慣れてきた。

【小学生との交流】よくできた 20、少しできた 2、あまりできなかった 0、できなかった 0

- ・普段の生活で子どもと触れ合う機会がなく、接するのが難しいように感じていたが、子ども達と話す心で底から楽しむことができて、幸せだった。
- ・子ども達は、予想以上に元気で明るく、私まで元気をもらえた。ケガも無く、楽しく一緒に遊べて良かった。

(2) 成果

- ① 事前研修で得た知識や技法を実践で活用しているように感じた。
- ② 2 日目の事前準備では、グループでの作業・クラフトの手順を確認することにより、受講者同士が交流を深めることができた。
- ③ 多くの受講者が今回の事業で初めてボランティア活動を体験したが、1 人もつまずくことなく、終始リラックスした様子で参加することができた。
- ④ 中高校ボランティア受講者が活動を実践したところ、小学生へのサポートが適切であり、交流を深めることができた。

(3) 課題

参加者募集の周知方法に難しさを感じる。昨年度・一昨年度は、抽選で募集したところ、定員割れだった。それを踏まえ、先着かつチラシ配布部数を増加（周辺の高校は全生徒に配布）したところ、募集開始初日に定員に達したため、締め切った。

また、1 校から多くの応募があり、交流事業としては、なるべく複数の学校からバランスよく参加する形が望ましい。中学生の参加者が少ないため、次年度以降は伸ばしていきたい。

6 事業の様子



コミュニケーションゲーム



活動の始め方・広げ方



活動の実践に向けて①



活動の実践に向けて②



活動の実践①



活動の実践②

担当 山田 貴史

「若者ボランティアフェスティバル（ユース&キッズ Happy フェス）」

1 事業目標

既存団体の地域活動やボランティア活動の認知度向上と若者による事業継承を目指し、関係機関や団体指導者と協働で、若者のボランティア活動促進をテーマにした交流活動を企画・実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年2月22日（土）～23日（日）※2/22 事前研修・会場準備

(2) 参加対象及び募集人数：一般来場者 150 名、ボランティア 20 名

(3) 参加状況

ア 参加者（来場者） 123 名

内 訳	未就学児	小学生 1～3 年	小学生 4～6 年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数	17	40	13				53	123

イ スタッフ ・一般ボランティア 35 名（高校生）

・ブース出展者など 53 名

(4) ミーティング 年間 2 回実施（11 月、2 月）

3 事業実施のポイント

- ① 協力団体とミーティングを行い、若者ボランティアの有効的な利活用、ブースの運営方法などについて協議し、よりよいプログラムを構築することができた。
- ② 当事業の協力機関に登録しているボランティア団体から選出していただき、各団体のよさを生かすブースを展開することができた。
- ③ 体験ブースの内容は、つくる・遊ぶ・学ぶの 3 種を用意し、動きがあるもの・静かに取り組むもの等、メリハリをつけてプログラムを提供した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
2 月 22 日 (土)		・事業説明 ・各団体の紹介 ・アイスブレイク ・ボランティアの心構え ・各ブースの準備等	
2 月 23 日 (日)	・最終打合せ ・つくるブース 4 ブース (手芸、丸おり紙、空気砲、書道関連の工作) ・遊ぶブース 5 ブース (ボールとばし、魚釣り、射的、おもちゃ等) ・学ぶコーナー 3 ブース (カードゲーム、上毛かるた、紙工作)	・昼食 ・会場片付け ・ふりかえり	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度（一般ボランティア、ブース出展団体、協力団体の感想等について）

1 一般ボランティア

ア 来場者（子どもたち等）とのコミュニケーション

よくできた 94%、まずまずできた 6%、あまりできなかった 0%、できなかった 0%
話す機会が少ない子どもたちと交流することができて楽しかった。

イ 他の参加者（ボランティア・スタッフ等）との会話・意見交換

よくできた 94%、まずまずできた 6%、あまりできなかった 0%、できなかった 0%
同世代だけではなく、年上の方とも話すことができ、とてもよい機会だった。

2 ブース出展団体・協力団体

- ・事前研修があることにより、よりよい交流をして、本番を迎えることができた。
- ・時間にゆとりがある時、他ブースのボランティアの方が自分達のブースに来てくれて、交流することができた。

(2) 成果

- ・既存のボランティア団体より、日ごろ団体に活動しているノウハウを高校生ボランティアに伝え、活動を継承する機会を提供することができた。ボランティア団体は、様々な世代の方がいるが、その世代間交流の場にもなった。
- ・様々なボランティア団体が一堂に会して実施したため、団体同士の交流や情報交換の場になった。
- ・各団体のリーダーが適切に運営していたため、効率よく進めることができた。配属した一般ボランティアがスムーズに活動している様子だった。

(3) 課題

- ・来場者数が伸びず、時間を持て余すブースが発生してしまった。来場者が少ないと、各ブースで準備してきたことを実践できる場面も減少するため、達成感も欠けてしまう。集客の工夫も必要不可欠である。
- ・初開催かつ多数の団体が参画したため、ブース出展団体の選出、内容の調整などに日数を費やした。次年度は、なるべく早い時期に着手し、関連団体と調整を図り、スムーズに決定したい。

6 事業の様子



事前研修



会場準備



つくるコーナー



あそぶコーナー



学ぶコーナー



スタッフ集合写真

担当 山田 貴史

「学生地域貢献活動参画推進事業」 (大学生と初めてのダブルダッチ体験会)

1 事業目標

群馬大学ダブルダッチサークル Rally の協力を得て、ダブルダッチの歴史や楽しさなどについて、大学生や他の参加者と交流しながらより深く理解する。また、大学生の企画・アイデアを表現する機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年9月21日(土)
 (2) 参加対象及び募集人数：小学4～6年生 30名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 20名、 申込人数 23名(キャンセル3名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数			20					20

イ スタッフ ・講師(群馬大学ダブルダッチサークル Rally) 9名

3 事業実施のポイント

- ① 群馬大学ダブルダッチサークル Rally の企画やアイデアをプログラムの中で生かし、小学生が気軽に体験できるように内容や時間を工夫して実施した。
- ② ダブルダッチの歴史や基本の練習・技への挑戦、最後にダブルダッチサークル Rally 代表者のパフォーマンスと、短時間でダブルダッチに親しめるよう工夫した。
- ③ 会場となるプレイホールの広さを有効に活用すると共に、児童一人一人の支援が十分にできるよう参加児童を3班編制にした。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
9月 21日 (土)	・開会式、事務連絡 ・ダブルダッチ体験会 (ダブルダッチの歴史・基本の練習・技への挑戦・学生のパフォーマンス) ・ふりかえり ・閉会式		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【ダブルダッチの歴史や楽しさを学ぶことができたか】 ・できた 20人 ・できない 0人
 【大学生や他の参加者と仲良くすることができたか】 ・できた 20人 ・できない 0人
 【また参加したいか】 ・参加したい 20人 ・参加したくない 0人

(参加者 感想)

- ・初めてやってみたけど、とても楽しかったし、できた時はうれしかった。
- ・やさしく教えてくれたのでとてもわかりやすく、たのしかった。
- ・ダブルダッチがたのしかった。ダンスもつけていたのでたのしい。パフォーマンスを見て、さか立ちや高速ダンスがすごかった。

(大学生 感想)

- ・学校や学年の違う子ども達だったが、みんなで同じ技に挑戦することで、それぞれが刺激をもらっているように感じた。一人の子ができるようになると、次の子もそれに続いてできるようになっていく場面が多くあり、私も一緒にダブルダッチができて楽しかった。またダブルダッチをやりたいと思ってくれる子もいて、とても嬉しかった。私自身も、また子ども達とダブルダッチを楽しみたいと思った。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。
- ・思っていたよりもたくさんの子ども達が来てくれて、嬉しかった。最初は少し緊張したが、やっていくうちに緊張がとれて楽しく活動ができた。子ども達が上手に跳ぶことができて喜ぶ姿を見て、私もとても嬉しかった。これからも、たくさんの子ども達にダブルダッチを楽しんでもらいたい。

(2) 成果

- ・新規事業で、時間や大まかな内容は決めたが、教え方や体験する技等の細かな部分は、学生がサークル内で話し合って決めた。
- ・縄への入り方や技への挑戦等、初めてダブルダッチを体験する小学生が抵抗なく体験できるよう工夫が見られた。
- ・縄の回し方や速さ、跳んで縄から出るときの縄の止め方等、子ども達が楽し跳べるように配慮していた。
- ・最後に学生の代表者がダブルダッチのパフォーマンスを見せてくれたが、高速跳びや逆立ち跳び等に参加していた子ども達から歓声が上がった。
- ・大学生も共催事業に達成感や満足感があり、次年度も事業実施の要望があった。

(3) 課題

- ・小学校の体育での縄跳びは、2 学期後半から 3 学期に計画している学校が多い。募集 30 名に対し応募が 23 名と少なかったのは、実施時期が理由の一つとも考えられる。学生と協議し、来年度は 12 月 13 日実施で計画する予定である。

6 事業の様子



ダブルダッチの説明



基本の練習 1



基本の練習 2



連続跳び



技への挑戦



大学生のパフォーマンス

担当 金子 勉

「体験活動・ボランティア活動支援センター」

1 事業目標

ボランティア活動を希望する青少年とそれを必要とする地域の団体や機関との連絡調整を行い、協働の機会を提供する。また、青少年および指導者のボランティア活動に関する情報を収集し提供する。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
 (2) 相談状況 6件 (2/28 現在)
 (3) ボランティア活動参加者数

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数					1		35	36

3 事業実施のポイント

- ① ボランティア団体や個人に対し、要望に応じた活動のコーディネートを行った。
 ② 県が運営するサイト「ボラスルン」に登録して、ボランティア活動・体験活動を希望する個人や団体に情報を提供し、活動の促進を図った。
 ③ 県や前橋市が主催する中間支援センター研修会に出席し、事業のPRを行った。

4 活動・相談内容

活動・相談日	内容
4月9日	【相談1】除草作業のボランティア活動希望
5月15日	【相談2】県内高校より、ボランティア情報の提供希望
5月20日	【活動1】相談1の実施（除草作業①）
5月22日	【相談3】県内の高校生より、ボランティア活動希望
5月29日	【活動2】相談2の実施（当会館主催事業のボランティア募集情報を提供・以降 コンスタントに情報発信）
8月5日	【活動3】相談1の実施（除草作業②）
8月18日	【相談4】県内の高校生より、ボランティア活動希望
9月23日	【活動4】相談3の実施（当会館共催イベントにボランティア参加）
9月28日	【相談5】福祉法人より、法人主催の行事に参加するボランティア紹介希望
10月8日	【相談6】県内の高校生より、ボランティア活動希望
10月14日	【活動5】相談1の実施（除草作業③）
11月17日	【活動6】相談5の実施（紹介した障害児音楽サークルが法人の行事に参加）

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- (除草作業のボランティア団体 代表者)
 ・昨年度に続き、団体の活動場所を提供していただき、ありがたかった。団体の活動が活性化すると共に、会員同士の交流を深めることができる。
- (障がい者施設のイベント担当者：福祉法人職員)
 ・紹介された障害児音楽サークルがステージ発表に参加し、舞台を華やかにしてくれた。サークルの方との交流もでき、双方にとって有意義な時間になった。

(2) 成果

- ①件数は少ないものの、ボランティア活動の希望者に対し、要望に応じたコーディネートをすることができた。
- ②除草作業に取り組むボランティア団体を受け入れ、当会館敷地内の除草・落ち葉拾いを行った。双方にとって、有意義な活動になった。

(3) 課題

- ・相談件数が少ないため、当事業の情報発信を強化する必要がある。しかし、相談件数が大幅に増加すると、コーディネートをする際に多くの時間を費やすため、当事業の専属職員が必要になる。
- ・県運営のボランティア情報サイト「ボラスルン」に当事業の情報を記載しているが、反響は少ない。県のサイト担当職員によると、少しずつ県民に認知されているようなので、推移を見守っていききたい。

6 事業の様子



除草活動



ボラスルンの活用

担当 山田 貴史

(3) 青少年の交流・体験活動事業

「心のバリアフリー事業（ふれあい・ゆうあい交流フェスタ）」

1 事業目標

障がいのある人とない人が共にふれあい、互いに理解し合える場づくりに向けて、障がいのある子どもを支援する団体や青少年団体関係者等と協働で実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年10月19日（土）～20日（日）※10/19 会場準備

(2) 参加対象及び募集人数：一般来場者 400 名、ボランティア 50 名

(3) 参加状況

ア 参加者（出演者・来場者等の合計） 747 名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		200	133	26	76		312	747

イ スタッフ ・ボランティア 54 名（高校生、大学生）

・その他 23 名（協力団体、群馬県青少年団体連絡協議会等）

(4) ミーティング 年間4回実施（6月、8月、9月、10月実施）

3 事業実施のポイント

- ① 昨年度よりも開催時間を長くすると共に、ステージ出演団体・体験ブース・模擬店・販売コーナーの数をそれぞれ増加した。
- ② 昨年度まで実行委員会形式で実施していたが、ここ数年は実行委員の数が減少傾向である状況から、協力団体が主体となるミーティング形式でプログラム内容等について意見交換した。新規団体が気軽に参加していただけるよう配慮したものである。
- ③ 体験ブースの内容は、動きがあるもの・静かに過ごすもの等メリハリをつけてプログラムを提供した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
10 月 19 日 (土)		・ 事業説明 ・ 心構えについて ・ アイスブレイク ・ 歌とダンスの練習 ・ 会場準備等	
10 月 20 日 (日)	・ ステージ発表 7 団体 (歌、ダンス等) ・ 体験ブース 8 ブース (ボールとばし、魚釣り、 ボールプール等) ・ 販売コーナー 3 ブース (野菜、焼菓子、工芸品販 売等) ・ パネル展示 4 団体 ・ 模擬店 8 ブース (フランクフルト、焼き そば、唐揚げ 等)	※午前と同様（～15:00）	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度（ボランティア、実行委員、群馬県青少年団体連絡協議会の感想等について）

- 1 ボランティア
- ア 障がいのある子（人）との交流
よくできた 60%、まずまずできた 38% あまりできなかった 2% できなかった 0%
多くのボランティアが障がい者との交流を深めることができた。
- イ 他の参加者（ボランティア・スタッフ等）との会話・意見交換
よくできた 75%、まずまずできた 17% あまりできなかった 8% できなかった 0%
同じ系のボランティアやスタッフと会話をしながら準備・当日の対応をすることができた。
- 2 群馬県青少年団体連絡協議会
- ・ボランティアの方が前向きな気持ちで取り組んで貰えて、コミュニケーションを図りながら円滑に進めることができた。
 - ・運営する側も楽しく取り組むことができたので良かった。ボランティアの方と笑顔で活動することができた。

(2) 成果

- ・コロナ禍以前に近い規模で開催し、ボランティア・スタッフ・来場者を合わせると 800 名を超え、会場は活気があふれていた。今後につなげることができる内容だった。
- ・ステージ発表は、新規 4 団体、復帰 1 団体がパフォーマンス等を披露し、新鮮な雰囲気だった。また、体験ブースでは新たなコーナーも設け、障がいのある人もない人も一緒に楽しむことができた。
- ・協力団体・群馬県青少年団体連絡協議会より、リーダーを担当した方々が各係で適切に運営していたため、効率よく進めることができた。ボランティアがスムーズに動いていた。

(3) 課題

- ・協力団体を増やす取り組みとして、実行委員会形式からミーティング形式に変更した。新たに 1 団体がミーティングに加わったものの、依然として参加者が少ない。今後、少しずつ協力団体を増やし、以前のような実行委員会形式で運営できることが理想である。
- ・高校生ボランティアの事前研修欠席者が多い。近年、土曜日に授業や補習を行う高校が多く、欠席に影響している。事前研修の欠席者が当日スムーズに活動できるよう補習できる仕組みを検討する必要がある。

6 事業の様子



事前研修 ダンス練習



ステージ発表



ボールプール



模擬店



販売コーナー



みんなで歌おう

担当 山田 貴史

「親子ふれあい体験教室(おやこ木工教室)」

1 事業目標

木工作品制作、ネイチャークラフト、レクリエーション等の共同・協力作業を通して、親子の絆や参加者同士の交流を深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。

既定の作品を手順通りに作るのではなく、木材や天然素材から自由に作品を作り上げることで、個々の想像力を養う。青少年が主体的に課題に取り組み、自身の意思を反映する機会を作り、自主性や積極性を培う。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年7月20日(土)～21日(日)

(2) 参加対象及び募集人数：県内在住の小学校3～6年生の親子 10組 20名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 24名、 申込人数 32名(キャンセル0名) ※家族数 12世帯

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計	0	6	6	0	0	0	12	24

イ スタッフ レクリエーション講師3名(青年赤十字奉仕団)

木工作品制作講師2名、ネイチャークラフト講師1名

高校生ボランティア2名

ウ 延べ参加人数(参加者×日数) 24名×2日=2名(1日目のみ参加が1組)=46名

3 事業実施のポイント

- 令和元年以来となる宿泊ありの日程で、1日目はレクリエーションと木工作品制作、2日目は自然の素材を活用したネイチャークラフトを行う。
- 木工作品制作では、昨年度と同様に材料の木材を1家族1本配付し、オリジナル作品を制作する。ネイチャークラフトでは、用意した材料の中から好きなものを選び、切る/割る/削るといった加工方法も自由に選択し、各々が想像した作品を形にする。
- 例年とは異なり館内のレストランが使用できない状況であるため、食事を別途発注し、食事会場として多目的学習室を利用する。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 20日 (土)		開講式 レクリエーション 木工作品制作 ・道具の使い方 ・共通作品の制作 ・オリジナル作品の制作	夕食 木工作品制作 ・オリジナル作品制作の続き 会場清掃 作品鑑賞 入浴 就寝
7月 21日 (日)	起床 朝食 宿泊室の整頓、清掃、退出 ネイチャークラフト ・講義、道具の使い方 ・オリジナル作品の制作 ふりかえり、閉講式		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

■木工作品制作

【満足度（4段階評価 4:たのしかった ～ 1:むずかしかった）】

4：9組、3：2組、2：1組、1：0組

【講義の分かりやすさ（4段階評価 4:よくわかった ～ 1:むずかしかった）】

4：9組、3：3組、2：0組、1：0組

(参加者の感想)

・むずかしかったけど、たのしかった。自分のオリジナルを作れたのがよかった。

■ネイチャークラフト

【満足度（4段階評価 4:たのしかった ～ 1:むずかしかった）】

4：9組、3：1組、2：1組、1：0組

【講義の分かりやすさ（4段階評価 4:よくわかった ～ 1:むずかしかった）】

4：10組、3：1組、2：0組、1：0組

(参加者の感想)

・自然の木がこんなに色々な形になることがおどろきました。

■全般

【交流活動：参加したみんなとお話できたか】

4：5組、3：3組、2：4組、1：0組

(参加者の感想)

・また来年も参加したい。友達がたくさんできて嬉しかったです。

(2) 成果

- ・協力して作業をすることで、親子でふれあい絆を深める機会にすることができた。
- ・講師の指導が適切で、全参加者が早い段階で作品を仕上げる事ができた。
- ・講師の厚意で材料を持ち帰る家族もあり、木工への関心を深める機会にすることができた。

(3) 課題

- ・作品の完成が早かったため、作業終了を30分早めて入浴等の自由時間に充てた。
今後も当日に進捗を確認しつつ、適宜日程を調整する必要がある。
- ・作品完成後は端材を糸鋸で切り抜いて装飾するなどして、各々で作品の完成度を高めた。
端材は最初の道具の説明でも使用するため、多めに用意しておく必要がある。

6 事業の様子



道具の使い方



糸ノコギリを使う親子



ノコギリを使う親子



木工作品と記念撮影



ネイチャークラフト作品



レクリエーション

担当 小林 俊輔

「高校生写真講座～デジカメワークショップ～」

1 事業目標

デジタル写真に対する基礎的な知識や写真制作等の技能を高める機会を高校生に提供する。
班活動によるワークショップや、写真撮影および組み写真作品の制作・発表等を通して、参加者同士の交流を図る。また、他事業で撮影ボランティアとしての活動機会を提供する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年6月15日（土）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住の高校生 40 名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 95 名、 申込人数 101 名（キャンセル6名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3 年	小学生 4~6 年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計					95			95

イ スタッフ ・ボランティア 0 名
 ・講師 3 名 ・その他 18 名（講師補助）

3 事業実施のポイント

- ① 講座内容を初心者向けと経験者向けの 2 コースにわかれて実施した。
 ② 大学教授や経験豊富な県内写真部顧問を外部講師として招き、基礎知識の習得や写真制作をより上達できるよう支援した。
 ③ 本講座で得た知識を生かせるよう、撮影ボランティアとして活動する機会を提供した。
 ④ 学校を混合して班を編制し、活動を通して参加者の交流を図った。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
6 月 15 日 （土）	デジカメワークショップ ・開講式 ・講義 日本大学藝術学部写真 学科教授 服部一人氏 組写真のつくり方 組写真の構成 ・撮影活動 場所：敷島公園・ばら園	・撮影活動 場所：敷島公園・ばら園 ・組写真制作・作品発表の準備 プリンタの使い方 写真印刷 ・作品発表・講評 ・閉講式	
6 月 15 日 （土）	初心者向け技能講習会 ・オリエンテーション ・講義 群馬県立桐生工業高等 学校写真部顧問 橘伸一郎 氏 基本的なカメラの使い方	・実習 ばら園での撮影活動 ・作品講評会 ・閉会	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

○デジカメワークショップ参加者

【講義】とてもよくわかった 21 わかりやすかった 9 難しかった 1 とても難しかった 0

・組写真の種類や組み方、構図やテーマのを見つけ方がよくわかった

【撮影活動・組写真制作】とてもよくできた 13 よくできた 17 あまりできなかった 1 全然できなかった 0

・班の人たちと協力して役割をわけたため、効率よく撮影できた

【交流】思ったより話ができた 18 話ができた 13 あまり話せなかった 0 全く話ができなかった 0

・それぞれの発想を自由に出し合って、積極的にコミュニケーションがとれた

・他校の人と話し合い、作品を作るのも経験となり良かった

○技能講習会参加者

【講義】とてもよくわかった 30 わかりやすかった 28 難しかった 3 とても難しかった 0

・先生の説明が丁寧でわかりやすく、理解しやすかった

【撮影活動】とてもよくできた 23 よくできた 37 あまりできなかった 2 全然できなかった 0

・写真もブレたりと上手く撮れないと思ったが、何枚かよく撮れたものがあり嬉しかった

【交流】思ったより話ができた 37 話ができた 20 あまり話せなかった 5 全く話ができなかった 0

・初めは緊張したが思ったよりも仲良くなれてたくさん写真を撮れて楽しかった

(2) 成果

・プログラムの内容を初心者、経験者の二コースにわけて開催したため、参加者の撮影スキルやニーズに合った内容にすることができた。

・撮影活動や組写真制作では、班員同士で協力して自主的に取り組むことができた。

・初心者向けの講義では、基礎的な写真の知識を集中的に学習した。講義で学んだことを生かしながら撮影実習に臨むことができた。

(3) 課題

初心者向けのコースでは募集定員を上回ったため、当日の運営スタッフや参加者のニーズを踏まえ、共催者と募集人数の調整をしていきたい。

6 事業の様子



技能講習会 講義



撮影実習



写真作品印刷



写真講座 講義



組み写真制作



作品講評会

担当 町田 友佳

「交流文化体験」

1 事業目標

児童と留学生、高校生ボランティアが海外や日本の文化をテーマとした体験活動を通して、多様な価値観に触れるとともに異年齢集団における交流を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年6月29日（土）、30日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：両日ともに小学校3～6年生 20人程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 42名、申込人数 58名（キャンセル3名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		12	30					42

イ スタッフ 留学生4名、伝統芸能体験講師 2団体25名
 高校生ボランティア 延べ11名、青少年団体5名

3 事業実施のポイント

- ① 留学生による自国文化の紹介や体験プログラムを通して、小学生が異文化に触れる。
 ② 日本の伝統芸能に触れる体験活動を通して、留学生と小学生が交流する。
 ③ 高校生ボランティアに対し、小学生の体験活動をサポートする機会を提供する。

4 日程

日時	午 前	午 後
6月 29日 (土)	・留学生の会場準備、外国の文化体験プログラムの打ち合わせ ・高校生ボランティアへの事業概要及び活動内容説明 ・青少年団体指導者と運営補佐の打ち合わせ	・青少年団体指導者のアイスブレイク ・留学生によるインドネシアの文化紹介とあそびの体験 ・伝統芸能体験：古馬牧の人形浄瑠璃人形の操作体験、浄瑠璃鑑賞 - 指導者：下牧人形芝居保存会吉田座
30日 (日)	・留学生の会場準備、外国の文化体験プログラムの打ち合わせ ・高校生ボランティアへの事業概要及び活動内容説明 ・青少年団体指導者と運営補佐の打ち合わせ	・青少年団体指導者アイスブレイク ・留学生によるハンガリー・ウクライナの文化紹介とゲームの体験 ・伝統芸能体験：月田近戸神社獅子舞獅子舞鑑賞、獅子舞クラフト、舞の体験 - 指導者：月田近戸神社獅子舞保存会

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

☆児童【29日（土）】

【留学生の話】よくわかった8、少しわかった11、少し難しかった1、難しかった0

- ・インドネシア語を学んでみたいと思った。
- ・インドネシアのお兄さんがおもしろかった。

【浄瑠璃】楽しかった7、少し楽しかった5、少し難しかった5、難しかった3

- ・人形浄瑠璃がおもしろかった。あんなに上手に操れてすごいと思った。

- ・やっている人は、手が見えないで操っていることに驚いた。

【留学生や参加者と話げたか】

たくさん話せた 11、話せた 6、少ししか話せなかった 2、あまり話せなかった 1

☆児童【30日（日）】

【留学生の話】よくわかった 15、少しわかった 4、少し難しかった 2、難しかった 0

- ・日本と違っておもしろいと思ったことは遊び
- ・ハンガリーの言葉は、日本語に似ていることを知った。

【獅子舞】楽しかった 12、少し楽しかった 4、少し難しかった 2、難しかった 3

- ・手の動きを意識すると、足の動きが遅れて、踊るのが難しかった。
- ・獅子舞づくりが楽しかった。

【留学生や参加者と話げたか】

たくさん話せた 13、話せた 6、少ししか話せなかった 2、あまり話せなかった 0

☆留学生（両日）

- ・プレゼンテーションとゲームの時にも小学生と交流ができたと思う。
- ・子ども達がすごく元気なので、自分も元氣になれた。

☆高校生ボランティア（両日）

- ・小学生自身が作ったり遊んだりできるように心がけ、全てを手伝うのではなく、サポートに徹した。
- ・普段の生活の中で関わることはできない小学生・留学生と触れ合えて良かった。
- ・今回の活動で子どもと触れ合う楽しさを学ぶことができた

（2）成果

- ・留学生が企画したプログラムは、小学生が積極的に参加しようとする姿勢を感じる事ができた。
- ・青少年団体によるアイスブレイクは、参加者同士のコミュニケーションを深める効果を感じられた。
- ・人形浄瑠璃で実際に使用する人形を操作する体験ができ、参加者にとって有意義だった。
- ・高校生ボランティアが明るい表情で適切なサポートをしていた。

（3）課題

- ・人形浄瑠璃は、用いている言葉等が小学生にとっては難しく感じたようだ。鑑賞の前に物語のあらすじを伝え、分かりやすい言葉に変換して演じるなど、工夫が必要である。それには、伝統芸能保存団体の理解・協力を得る必要がある。
- ・今回の内容からすると、高校生ボランティアへの事前研修は、時間が不足していた。プログラムの内容に応じて、研修の内容・時間を適切に設定することが望ましい。

6 事業の様子



青少年団体のアイスブレイク



ウクライナ文化紹介



インドネシアのあそび



ハンガリーのゲーム



人形の操作体験



獅子舞体験

担当 山田 貴史

「高校生と小学生の夏休み交流活動」 (夏だ！書道だ！おもしろ筆だ！)

1 事業目標

部活動や委員会活動に励む高校生に、小学生の体験教室に関わる機会を提供し、事業を通してボランティア活動の達成感を味わうと共に、年少者を思いやる心を育む。
体験教室に参加する小学生へは、書道への興味関心を高める一助とすると共に、有意義な交流の機会を提供する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年8月1日（木）
(2) 参加対象及び募集人数：小学3～6年生 20名程度
(3) 参加状況

ア 参加者合計 15名、 申込人数 48名（キャンセル5名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		7	8					15

イ スタッフ ・講師（ボランティア） 13名（前橋市立前橋高等学校 書道部有志）

3 事業実施のポイント

- ① 高校生が得意とする知識や技能を発揮し、高校生自身が企画した事業を実施することにより、社会貢献できる喜びを感じられるよう配慮した。
- ② 制作活動を通して、高校生と小学生が交流を深められるプログラムの企画立案を行った。
- ③ 書道部顧問・部員の代表者（高校生）と打ち合わせを重ね、事業の趣旨に沿うプログラムを構築した。また、小学生への指導を適切に行えるよう進行の方法を熟考した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 1日 (木)	開講式・事務連絡 筆づくり 作った筆で和紙に描く うちわづくり 書道パフォーマンス ふりかえり 閉講式		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【満足度：楽しく学ぶことができたか】
とてもそう思う 15人、少しそう思う 0人、あまりそう思わない 0人、全くそう思わない 0人
【交流活動：みんな（小学生・高校生）と仲良く過ごせたか】
とてもそう思う 14人、少しそう思う 1人、あまりそう思わない 0人、全くそう思わない 0人
【参加者：講義の分かりやすさ】
とてもそう思う 14人、少しそう思う 1人、あまりそう思わない 0人、全くそう思わない 0人
(参加者：小学生)
・筆を作ったり、描いたりするのが楽しかった。書道の楽しさが分かった。

- ・筆やうちわも上手に作れて良かった。材料がたくさんあって、作りやすかった。
- ・筆づくりも描くのも楽しかった。うちわのデコレーションも楽しかった。
- ・うちわや筆をどうやって作るのかが分かって良かった。家でも作ってみたい。

(指導者:高校生)

- ・小学生への接し方が難しかったが、自分なりに説明し、小学生に分かりやすく工夫した。
- ・小学生とのふれあいの中で、自分自身で制作する力を育めるように努めることができた。
- ・小さい子どもとふれあう機会がなかったので、良い経験になった。

(2) 成果

- ・高校生が考案したプログラムが素晴らしく、小学生の興味関心を深める構成になっていて、自分達で企画した事業を実施することにより、社会貢献できる喜びを味わうことができた。
- ・高校生の進行・サポートが適切であり、全参加者がつまづくことなく、小学生にとって貴重な体験を提供することができた。
- ・高校生は、小学生への接し方が不慣れではあったが、積極的に話しかけるなどコミュニケーションを図り、その場の雰囲気のを和ませていた。小学生は、和やかな表情で参加していた。
- ・最後に披露した書道パフォーマンスは、表現活動の魅力を小学生に伝えることができた。

(3) 課題

近年、高校の文化部が地域イベントで活動する機会が増えており、相手方によってはスケジュールの調整が難しい場合がある。

初めて小学生とふれあう高校生への事前指導は不可欠であり、企画立案や指導法、コミュニケーション法などを伝える必要がある。

6 事業の様子



筆づくり



筆で和紙に描く



うちわの材料選び



うちわづくり



書道パフォーマンス



閉講式

担当 山田 貴史

「小学生ドローン体験」

1 事業目標

ドローンを使った新しい仕事や、ドローンがつくる未来などについて学ぶ。
ドローンに関する講義と操縦を通して、参加者同士の交流を深めて協調性を育むと共に、普段の生活では得られない技術体験の機会を設ける。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年8月7日（水）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住の小学校4～6年生の児童 15名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 16名、 申込人数 119名（キャンセル0名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計	0	0	16	0	0	0	0	16

イ スタッフ ドローン講師 2名
 高校生ボランティア 2名

3 事業実施のポイント

- ① 昨年、県内の青少年施設向けに実施した「広報のためのドローン講習会」をもとに、小学生も楽しめる内容にアレンジして実施する。
 ② 講義は難しい内容を避け、動画等も交えて視覚的にドローンについて学べるようにする。
 ③ 操縦体験時は班分けをし、BGMを活用した時間区切りでローテーションしながら、的当てのブースとコース飛行のブースの両方を満遍なく体験する。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 7日 (水)	開講式 ドローンに関する講義 講師による大型/中型ドローン操縦実演 ホビードローンの操作説明 ホビードローンの操縦体験 閉講式		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【満足度（4段階評価 4:たのしかった ～ 1:むずかしかった）】
 4：13人、3：2人、2：0人、1：1人
 【講義の分かりやすさ（4段階評価 4:よくわかった ～ 1:むずかしかった）】
 4：11人、3：4人、2：1人、1：0人
 【交流活動：参加したみんなとお話できたか】
 4：7人、3：6人、2：3人、1：0人
 (参加者の感想)
 ・ドローンは、人が行けない災害地などで撮影もできると初めて知った。
 ・体験してみて、ドローンの操縦はとても難しかったです。でも、時間が経つことで、段々と慣れてきました。

- ・すごい方に飛んですごく面白かったし楽しかったので、買いに行って家でいっぱい遊びたいです。またドローンの体験をしたいです。

(高校生ボランティアの感想)

- ・充電交換や風船の交換などの面でサポートできた。会話などができて、楽しみながら取り組めた。
- ・最初は緊張していましたが、小学生とふれ合いながらやっていくうちに、楽しくできたのでよかったです。

(2) 成果

- ・班ごとの操縦体験を通して、参加者同士で楽しみながら交流する機会にできた。
- ・動画を交えた講義により、ドローンがどのように活躍しているか、ドローンが作る未来がどのようなものか等を学べる内容となった。
- ・スムーズに班分けとローテーションを行い、全員が各ブースを満遍なく体験できた。

(3) 課題

- ・会場のスペースと講師の作業量の関係で、一度の開催で受け入れ可能な参加者の人数は、今回の16名が限度である。それに対し申込人数は119名と非常に多い。講師のスケジュールの都合上、開催日数を増やすことも難しい。
- ・的当て用の風船作り、ドローンの電池交換と充電、離陸前のセッティング等、操縦体験中の作業が多いため、スタッフの増員や事前研修時間の確保等を工夫する必要がある。

6 事業の様子



中型ドローンの操縦実演



大型ドローンの操縦実演



ホビードローンの操作説明



操縦体験(的当て)



操縦体験(コース飛行)



輪をくぐるホビードローン

担当 小林 俊輔

「小学生イラスト講座」

1 事業目標

児童と高校生ボランティアが制作活動を通して、美術の興味・関心を高めるとともに、作品制作における創造性や技術を育むことを目的とする。
イラストの作品鑑賞を通して、参加者同士や異年齢と交流を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年8月21日（水）～22日（木）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住の小学生（4～6年生）25名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 22名、 申込人数 62名（キャンセル3名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計			22					22

イ スタッフ ・ボランティア 6名
 ・講師 1名

3 事業実施のポイント

- ① 専門学校の教員を講師として招き、イラスト制作における基礎的な知識や技法を小学生に指導した。
 ② 作品完成後に鑑賞会を行い、参加者同士が直接交流できるようプログラムを工夫した。
 ③ 高校生が児童との交流や活動を支援するボランティアの機会を提供した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 21日 （水）	・高校生ボランティアへ事業概要・活動内容等の説明 ・高校生ボランティア、講師の会場準備	・開会式 ・画材練習 ・作品制作開始 - 下描き - 転写 - ペン入れ - 色鉛筆 ・片付け	
8月 22日 （木）	・高校生ボランティア、講師の会場準備	・作品制作のつづき - 色塗り ・作品の額装 ・作品鑑賞会 ・片付け、ふりかえり ・閉会式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

○参加者（小学生）

【作品制作に楽しく取り組めたか】

とてもそう思う 22 少しそう思う 0 あまりそう思わない 0 全くそう思わない 0

【他の参加者と交流できたか】

とてもそう思う 13 少しそう思う 8 あまりそう思わない 1 全くそう思わない 0

・とても楽しかった。先生がすごく優しくて良かった。またやりたい。

・絵を描く順番がわかり「絵ってこんなに面白いんだ」と思った。

・高校生のお姉さんたちも優しく接してくれて嬉しかった。

○高校生ボランティア

【事前準備】

・作業がしやすくなるように画材の整理などができて良かった。

【プログラム支援】

・一緒に活動に参加できて良かった。周りをよく見て気を配るのが大事だと思った。

【交流】

・気さくに話しかけてくれる小学生と仲良くなれて、充実した2日間を過ごすことができた。

(2) 成果

・初日に自己紹介をする時間を設けたため、講師や小学生、高校生ボランティアが互いに打ち解けあうことができた。

・応募者多数のため募集定員を10名増員し、県民のニーズに応えることができた。

・講師は参加者一人一人に寄り添い、個別での指導やサポートを行っていた。児童も講師へ何度も質問をしており、信頼して作品制作に取り組むことができた。

(3) 課題

・作品制作で使用した色鉛筆などの画材が机に付き、片付けに時間がかかってしまった。机上に新聞紙を敷くなど、活動環境を整える工夫をしたい。

・参加者によって制作するペースは異なるため、進行には配慮が必要である。

6 事業の様子



画材練習



作品下描き



線画



色塗り（色鉛筆）



色塗り（絵筆）



作品鑑賞会

担当 町田 友佳

「企業コラボ体験活動 わくわくメガネを考えよう」

1 事業目標

ジンズパークの協力を得て小学生に企業での製品の企画、働き方などについて、スタッフの方と交流しながらより深く理解する。店舗での商品展示などを見学し、各自が工夫をこらした製品を企画体験する機会とする。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年7月31日（水）

(2) 参加対象及び募集人数：小学生（4～6年）20名程度、ボランティア3名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 18名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数			18					18

イ スタッフ ・ジンズスタッフ2名

・ボランティア12名（高校生）

3 事業実施のポイント

- ① 新規事業として、協力企業を探し、事業実施する。
- ② 職場体験ではなく、各自のアイデアを盛り込んだ企画体験とする。
- ③ 企画だけでなく、小学生同士や高校生ボランティアとの交流ができるような事業とする。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 31日 (水)	- 自己紹介 - メガネの企画、ビジョンなどの説明等 - メガネのデザインや機能を考える企画体験	- ジンズパークへ移動し、店舗ツアー - 企画の最終作業 - チーム内発表、全体発表	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度（事業参加者の感想等について） 1 小学生
- ア 企画についての理解（メガネがどのように生み出されるのか）
よくわかった 67%、わかった 33% と全参加者が理解できたと回答している。
- イ 企画の体験（よいメガネのを考えられたか）
考えられた 83% まずまず考えられた 17% とそれぞれが自分のアイデアをまとめることができた。
- ウ 交流（小学生同士、高校生ボランティアとの交流）
よくできた 72%、できた 22%、あまりできなかった 6% との回答であり、多くの参加者が交流できたと考えられる。

2 高校生ボランティア

ア 子どもたちとの交流

よくできた 50%、できた 42%、あまりできなかった 8% と多くの参加者が子どもたちと一緒に活動できたと回答している。

イ その他の感想など

打ち解けるまでに時間がかかったが、時間とともにたくさん話ができたと意見が多くみられた。

(2) 成果

- ・新たな事業のため協力企業を探すところからスタートしたが、快く引き受けていただくことができた。
- ・企画の体験ということでやや難易度が高いのではないかと心配もあったが、自分のアイデアをそれぞれの小学生が楽しく取組み、発表することができた。
- ・体調管理なども心配されたが、怪我や熱中症などもなく、事業実施できた。
- ・高校生ボランティアが多く参加してくれて、小学生としっかりコミュニケーションをとることができた。

(3) 課題

- ・高校生ボランティアから打ち解けるまでに時間がかかったというように、小学生も緊張していたと考えられる。自己紹介カードなどの作成をしたがもう少し、リラックスできるようなアイスブレイクなどをしてよかったのではと感じる。
- ・協力していただける企業を探すことが難しいため、候補企業を事前に調査しておくことも必要だと思う。

6 事業の様子



JINS 社員の方による説明



企画案の情報整理



JINS パーク見学



企画案づくり



グループ発表



全体発表

担当 井口 堅太郎

「企業コラボ体験活動(青少年会館のみんなとあそぼう!)」

1 事業目標

ジンズパークにおいて、群馬県青少年会館と群馬県青少年団体連絡協議会による体験活動のブース出展を行い、青少年に体験活動の機会を提供する。

これまで青少年会館を利用したことのない方に向けて、青少年団体と青少年会館の広報機会とする。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年8月17日(土)

(2) 参加対象及び募集人数：小学生(申込み不要の事業であるため、学年・人数等の制限なし)

(3) 参加状況

ア 参加者合計 132 名

内 訳	未就学児	小学生 1~3 年	小学生 4~6 年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計	0	27	61	0	0	0	44	132

イ スタッフ スタッフ 14 名(群馬県青少年団体連絡協議会、群馬県青少年会館友の会)
高校生ボランティア 12 名

3 事業実施のポイント

- ① 通常の事業とは異なり、青少年会館内ではなくジンズパークの屋内外で団体ごとの体験活動ブースを出展し、青少年に体験活動の機会を提供する。
- ② ジンズの職員の方とブースの出展スペース、貸出備品、スケジュール等を調整し、各団体と内容を共有しながら準備を進める。
- ③ 屋外にクライミングウォールのブースを出展する関係上、事前に業者と連絡を取り合い、安全管理、熱中症対策、待ち整理等の方法を確立する。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8 月 17 日 (土)	開会式 ブース準備 ブース出展開始	ブース終了、片付け 閉会式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【体験活動の提供について(4段階評価 4:よくできた ~ 1:できなかった)】

4:9人、3:1人、2:1人、1:0人

【団体の広報について(4段階評価 4:よくできた ~ 1:できなかった)】

4:7人、3:3人、2:0人、1:1人

【交流活動：参加者と楽しくふれあうことができたか】

4:6人、3:4人、2:1人、1:0人

(スタッフの感想)

- ・チラシを一緒に配らせてもらえ大変ありがたかった。混雑時ではない時間では、保護者の方に団体の話をし、興味深く聞いて下さっていた方もいた。
- ・空き時間に、高校生に団体の紹介ができた。
- ・保護者の方などにも興味をもっていただけ、楽しく活動できました。
- ・クラフトを作成中に、会話を楽しめた。楽しそうな笑顔がたくさん見られた。

- ・暑い時期のイベントで心配していました。スペースがもっと必要かと思います。いろんな体験ができて、参加者はたのしかったようです。
- ・会場が夏なのに涼しく、身体が楽でした。おしゃれな会場で、来場者も明るい雰囲気の中楽しめたと思います。

(2) 成果

- ・スペースが限られるため混雑が発生する状況もあったが、保護者にフロアで待機してもらい子どものみブースに通す等の現場判断により、徐々に落ち着きを見せた。
- ・参加者に楽しい体験活動を提供しつつ、団体ごとに工夫して広報活動できた。
- ・予報通りの猛暑となったが、風の通りは良かったため、気候による体調不良者は出なかった。また、適切な安全管理により怪我人も出なかった。

(3) 課題

- ・配置や作業内容との兼ね合いもあり、裏での作業が中心となって参加者との交流や広報活動に回れない方もいた。空き時間で、他のスタッフに研修を行って途中交代するような仕組みがあれば、より充実した事業になったと思われる。

6 事業の様子



ロープワーク



帽子のクラフト



バルーンアート



メガネ企画



クライミングウォール①



クライミングウォール②

担当 小林 俊輔

(4) 青少年団体の育成及び指導事業

「青少年団体活動支援事業」

(夏休み宿題お助け隊)

1 事業目標

群青連協加盟団体が連携して、子ども達の課題解決能力や社会性を育む。
各青少年団体の活動経験を生かして高校生ボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年8月3日（土）～4日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：各日小学1～6年生110名程度・高校生ボランティア20名程度
 (3) 参加状況（2日間計）

ア 参加者合計 177名、 申込人数 309名（キャンセル43名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計		107	70					177

イ スタッフ ・運営スタッフ（群馬県青少年団体連絡協議会） 40名
 ・高校生ボランティア 49名

3 事業実施のポイント

- ① 昨年度に引き続き、2日間開催するとともに宿題を読書感想文、絵画・ポスターの2コースにして実施した。
 ② 体験プログラム（ミニ茶道体験）を実施し、日本の文化にふれる機会を提供した。
 ③ 体験活動では紙コップ鉄砲の作成および、班対抗戦の的あて大会を行い、参加者や高校生ボランティアが交流を深められるよう配慮した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 3日 (土)	・運営スタッフ集合 ・高校生ボランティア 集合	・体験プログラム ミニ茶道体験 ・宿題再開	
8月 4日 (日)	・高校生ボランティア 事前研修 ・参加児童受付 ・開会式 ・宿題開始	・体験活動 紙コップ鉄砲づくり 的あて大会 ・閉会式 ・高校生ボランティア ふりかえり	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

(参加者：小学生)
 ・お兄さん・お姉さんと楽しく宿題に取り組むことができましたか
 とてもそう思う 141 少しそう思う 22 あまりそう思わない 3 全くそう思わない 1
 ・みんな（小学生、お兄さん・お姉さん）と仲良く過ごせましたか
 とてもそう思う 135 少しそう思う 28 あまりそう思わない 3 全くそう思わない 1

- ・一番大変な読書感想文が終わって良かった。宿題でいっぱいだった頭がすっきりした。
- ・お姉さんたちが背景の色や文字の色と一緒に考えてくれたので嬉しかった。
- ・最初は緊張したけど、お兄さん・お姉さんが優しくて安心した。
- ・茶道体験楽しかったし、美味しかった。良い体験をしたと思った。

(高校生ボランティア)

- ・初めはどんな風に活動するのか分からず、不安がいっぱいだったけど、事前研修で概要を聞いたら楽しみが強くなってきた。
- ・最初は小学生たちと距離があってよいアドバイスができなかったが、だんだんと打ち解けることができて、一緒に話をしながら宿題のサポートをすることができた。
- ・紙コップ鉄砲では、子どもが段ボールの中にボールが入ったと嬉しそうに言ってくれて私も笑顔になれた。

(運営スタッフ：群青連協)

- ・みんな勉強や体験活動に集中して、完成に向けて一生懸命になって頑張っていた。
- ・茶道体験や体験活動などで子供たちが楽しんでくれていた。

(2) 成果

- ・群青連協スタッフや高校生ボランティアは、子どものやる気を引き出すような声かけや宿題の支援を行うことができた。子どもたちも落ち着いて、真剣に宿題に取り組むことができた。
- ・定員を上回る応募がきたため、定員数を増やし参加者のニーズに応えることができた。
- ・ミニ茶道体験では、群馬県茶道会青年部員をはじめとするスタッフの指導のもと、希望者全員が体験することができた。
- ・体験活動（紙コップ鉄砲づくり）では、群青連協スタッフや高校生ボランティアがサポートしながら安全に実施できた。的あて大会では得点を競い合い、交流を深めることができた。

(3) 課題

- ・体験活動は参加者の人数が多く活動に一体感がないため、グループ分けや内容等の改善が必要がある。
- ・宿題を早めに終わらせた子どもに対し課題を与えるなど、退屈させない工夫をする。
- ・参加者の定員数を増やした分、一人あたりのサポートが行き届きにくかった。当日のスタッフ数などを考慮し、慎重に定員数を設定していきたい。

6 事業の様子



高校生ボランティア 事前研修



宿題の支援(読書感想文)



宿題の支援(ポスター)



ミニ茶道体験



紙コップ鉄砲づくり



的あて大会

担当 町田 友佳

「青少年団体活動支援事業」 (夏休み子ども茶道教室)

1 事業目標

茶道を通じた体験教室を実施するため、一般社団法人ガールスカウト群馬県連盟と青少年会館が協働して、企画・立案をする。また、その成果を事業として実践する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年8月18日(日)

(2) 参加対象及び募集人数：小学1～6年生 午前・午後の部 各10名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 18名、申込人数 84名(キャンセル6名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		6	12					18

イ スタッフ・講師(ボランティア) 3名(ガールスカウト群馬県連盟)

3 事業実施のポイント

- ① 入門者向けのプログラムとして、小学生が気軽に体験できるようテーブル茶道の形式で実施した。
- ② 講師が点てたお茶と参加者自身が点てたお茶を飲み比べ、点て方によって味が変わることを体感した。
- ③ 飲食を伴うプログラムのため、道具などの共有を最小限にするなど感染防止対策に取り組んだ。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 18日 (日)	・開講式、事務連絡 ・茶道体験 (お茶の説明・お菓子の頂き方・お茶の点て方・道具の紹介) ・ふりかえり ・閉講式	・開講式、事務連絡 ・茶道体験 (お茶の説明・お菓子の頂き方・お茶の点て方・道具の紹介) ・ふりかえり ・閉講式	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【習ったことは分かったか】

よく分かった 13人、だいたい分かった 5人、難しかった 0人、とても難しかった 0人

【周りの参加者に心づかいをすることができたか】

よくできた 6人、だいたいできた 11人、あまりできなかった 1人、ぜんぜんできなかった 0人

(参加者 感想)

- ・道具の名前がよく分かった。分かりやすく説明してくれたので、楽しかった。家でもしたい。
- ・先生が点てたお茶と自分で点てたお茶を飲み比べてみたら、少しだけ苦かった。2回目は、泡がでるまで混ぜたら、もっとおいしくなった。
- ・お茶の点て方を習って、みんなとできて楽しかった。また、このような機会があったら茶道をしたい。とても勉強になった。

(ガールスカウト群馬県連盟 感想)

- ・ガールスカウトの活動で子どもに接しているため、良いアプローチができたと思う。開始前後、子ども達との会話が弾んだ。
- ・定員は、今回のように10名程度だと指導しやすく丁度良い
- ・子どもとふれあう機会をいただき、私達も楽しみながら進行することができた。

(2) 成果

- ・受付後から開始前までの間、指導者の方々が参加者とコミュニケーションを図っていたため、緊張感が解れた状態でプログラムに入ることができた。
- ・茶道具や文化の説明など、スモールステップで分かりやすい言葉を用いて進めていたため、参加者はつまづくことなく受講していた。その甲斐あって、参加者アンケートによると、全参加者が概ね理解できた。
- ・少人数制のため、きめ細かな指導をすることができた。

(3) 課題

参加は小学生のみの少人数であり、事業の特性上、賑やかに行うプログラムではないが、緊張感を取り除くよう、雰囲気づくりが必要である。また、飲食を伴うため、感染症対策などの安全面に配慮したい。

6 事業の様子



作法の説明



茶道具の説明



体験：お菓子の頂き



体験：お茶の飲み方



体験：お茶を点てる



参加者が使った茶道具

担当 山田 貴史

「青少年団体活動支援事業」 (おやこで茶道教室)

1 事業目標

参加する児童とその保護者が体験を通して、茶道に対する関心を高めるとともに、おもてなしの心を育むことを目的とする。
事業の実践を通して茶道会青年部の活動を周知する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年12月8日(日)

(2) 参加対象及び募集人数：親子(小学生1名と保護者1名)計20組40名

(3) 参加状況

ア 参加者合計 38名、 申込人数 88名(キャンセル 6名) ※家族数 19世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計		10	9				19	38

イ スタッフ・ボランティア 7名(群馬県茶道会青年部)

3 事業実施のポイント

- ① 短時間で気軽に参加できるよう、午前・午後の二部制で開催した。
- ② クリスマスをテーマにしたお菓子を提供し、お茶席をより楽しめるよう工夫した。
- ③ プログラムの後半にミニ茶会を行い、親子で一緒に体験できるプログラムを用意した。
- ④ 飲食を伴うプログラムのため、プログラム前に手洗いや手指消毒をするなど、感染予防に努めた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
12月 8日 (日)	・開会式、事務連絡 ・茶道教室 - 先生のお点前 - お道具の説明 - お菓子のいただき方 - お茶の飲み方 - お茶の点て方・練習 - チャレンジミニ茶会 ・閉会式 ・アンケート記入	・開会式、事務連絡 ・茶道教室 - 先生のお点前 - お道具の説明 - お菓子のいただき方 - お茶の飲み方 - お茶の点て方・練習 - チャレンジミニ茶会 ・閉会式 ・アンケート記入	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

アンケート回答：19
1 茶道教室で学んだ内容の理解度
とてもわかりやすかった 14 わかりやすかった 3 難しかった 2 とても難しかった 0
2 おもてなしの心をもってお茶を点て合えたか
よくできた 14 まあまあできた 4 あまりできなかった 1 全くできなかった 0

(小学生：感想)

- ・茶道には興味があったため体験できて良かった。
- ・クリスマスのお茶碗や茶杓がかわいかった。
- ・お茶の歴史についてたくさん知りたい。
- ・また親子で茶道教室があるのなら参加したい。

(保護者：感想)

- ・日本の心を子どもとともに学ぶことができ、大変よかった。
- ・掛け軸やお花にも意味があったり、一つ一つの動作にも相手をもてなす心がこもっていたりとても勉強になった。
- ・敷居の高い茶道を親子で楽しく体験でき、参加できて良かった。本物の道具を使っていただけため、子どもが触れる際にはひやひやしたが、非日常体験がとても楽しかった。

(2) 成果

- ・参加者アンケートによると、茶道の作法や心構え等について全参加者が概ね理解できた。
- ・茶道に関するテキストをふりがなやイラスト等を交えてリニューアルし、参加者へ配布することができた。
- ・プログラムの途中で休憩を挟み、正座をしている参加者に負担がかからないよう配慮があった。また休憩時等には茶道の小話をするなど、参加者と積極的にコミュニケーションを図ることができた。

(3) 課題

- ・毎年定員を上回る応募があるため、可能な限り多くの応募者が参加できるよう工夫したい。
- ・現在のプログラムは、茶道会青年部が緻密に企画したプログラムを提供しているが、参加者がより主体的に活動できるよう、連携を図りたい。

6 事業の様子



先生のお点前



お菓子のいただき方



お茶の飲み方



お茶点て練習



チャレンジミニ茶会



閉会式

担当 町田 友佳

「青少年団体活動支援事業」
(目指せ！ギネス記録 紙飛行機づくりとオリジナルスノードームづくり)

1 事業目標

青少年団体の振興・育成のため、各青少年団体との連携を一層深めるとともに共催事業や連携事業を企画・実施する。

群青連協加盟団体が連携して、子ども達の創造性や表現力、社会性を育む。また、各青少年団体の活動経験を生かして高校生ボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年1月26日（日）

(2) 参加対象及び募集人数：小学生（1～6年）50名程度、高校生ボランティア30名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 84名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数	0	44	40	0	0	0	0	84

イ スタッフ ・群馬県青少年団体連絡協議会スタッフ10名
 ・高校生ボランティア47名

3 事業実施のポイント

- ① 従来の事業内容（紙飛行機）のみではなく、新たな企画内容の実施
- ② 高校生ボランティアの育成、ボランティアの魅力発信
- ③ 可能な限り受入人数を増やした対応

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 26日 (日)	・高校生ボランティア研修 ・スノードームづくり ・紙飛行機づくり、練習 ・飛ばし大会 ・高校生ボランティア振り返り会		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度（事業参加者の感想等について）

- 1 小学生
 ア 事業のねらい（創造性、表現力）いろいろな紙飛行機をつくってみたか
 たくさんできた 37%、できた 53% と多くの参加者がたくさんの試作を作れた。
 イ 事業のねらい（創造性、表現力、科学への興味）よく飛ぶ飛行機ができたか
 作れた 63% まずまず作れた 18% と工夫、試作をし、よく飛ぶ飛行機を作れた。
 ウ 交流（小学生同士、高校生ボランティアとの交流）
 よくできた 62%、できた 33%、あまりできなかった 5% との回答であり、多くの参加者が交流できたと考えられる。

エ 満足度（またこのような事業に参加したいか）

ぜひ参加したい 67%、参加したい 30%、参加したくない 4%

オ その他の感想

同じチームの子と友達になれた。高校生とも友達になることができた。自分らしいスノードームが作れて嬉しかった。廊下から部屋まで飛んだり、曲がって飛んだりする飛行機が作れた。

2 高校生ボランティア

ア 子どもたちとコミュニケーションをとることができたか

よくできた 73%、できた 25%、あまりできなかった 2% と多くの参加者が子どもたちと一緒に活動できたと回答している。

イ このような機会があればまたボランティアとして参加したいか

ぜひ参加したい 76%、参加したい 24% と参加したいという意見が合わせて 100%となった。

ウ その他の感想など

ふだん小学生と関わりがなく、よい経験になった。ボランティアをするのが初めてで緊張したが、楽しく会話できた。子ども達だけでなく、我々、高校生側も十分すぎるほど楽しめた。また、こういった活動があればぜひとも参加したい。

（2）成果

- ・群馬県青少年団体連絡協議会が内容に新規でオリジナルスノードームづくりを企画し、応募人数が 192 名と昨年度の 39 名から大幅に増加した。
- ・受入人数を当初の 50 名程度から 110 名に増やし、会場を 3 会場に分けて、スムーズな事業進行や感染症対策などを考慮しながら実施できた。
- ・高校生ボランティアの応募も 47 名（1 名キャンセル）と昨年度の 19 名から増え、多くの高校生ボランティアの活動の機会となった。高校生からはよい経験となった、初めてのボランティアだったが楽しむことができたなどの意見を聞くことができた。ボランティア活動に参加したいという意見が多くあり、群馬県青少年団体連絡協議会による研修、振り返り会などの実施も充実したものだった。

（3）課題

- ・新規事業の準備のため群馬県青少年団体連絡協議会スタッフによる試作、運営などの負担が大きかったのではないかと考えられる。青少年団体活動支援事業として、事業団との共催の中でできることを検討していきたい。

6 事業の様子



高校生ボランティア研修



スノードームづくり



スノードームデコレーション



スノードーム完成



紙飛行機づくり



紙飛行機飛ばし大会

担当 井口 堅太郎

「青少年団体活動支援事業」 (ボランティアのつどい)

1 事業目標

VYS活動やボランティアに興味を持つ一般青少年を対象とした「ボランティアのつどい」を開催し、本会の活動を周知する。また、実践的活動として地域の小学生に対して「VYSと遊ぼう！～えがおをつかみとれ！春の大うんど会～」を行うことで、VYS活動をより具体的に体験する機会を設け、活動の楽しさや充実感などを体感し、今後継続してVYS活動やボランティアを行う意欲を高めることを目指す。

同時に、地域の小学生の体験的活動の場となるように、青少年をはじめ、他校、異学年の児童との関わりが持てるブースを展開する。

会員においては、VYS活動を紹介することを通して普段の活動を見つめ直し、活動に対する理解を深め、活動の拡充を意識する機会とする。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年3月8日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：高校生以上のボランティア 30名程度・小学1～3年生 60名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 33名、 申込人数 40名（キャンセル7名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
合 計					32	1		33

イ スタッフ ・運営スタッフ（群馬VYS連絡協議会） 5名

・イベントに来場した小学生（1～3年生） 45名

3 事業実施のポイント

- ① プログラムのテーマを運動会と定め、児童を6班に編制した。競う班はブースごとに異なるよう配置した。
- ② 参加者の一部を児童の班に割り振り、円滑にプログラムを進行できるよう工夫した。
- ③ 体験ブースは動きのある遊び、手先を使う工作など3種類用意し、様々なジャンルで楽しめるようバランス良く用意した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
3月 8日 (土)	開会式 アイスブレイク 午後のイベントに向けた 準備活動	「VYSとあそぼう！」開催 VYS各地区紹介 閉会式 ふりかえり・アンケート記入	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【参加者】

1. アイスブレイク（仲間づくりのゲーム）について

〔とてもよくできた 78% よくできた 19% あまりできなかった 3%〕

・VYSの方の指示に従い、他のボランティアの方と協力して活動することができた。

2. 小学生との交流について [とてもよくできた 90% よくできた 10%]
・たくさんの小学生と触れ合うことができてとても楽しく、良い経験になった
3. イベント活動（準備～開催）について [とてもよくできた 97% よくできた 3%]
・準備や開催を通して、同じグループの人と話し、仲良くなることができた。
・開催側に携わることができて、いろいろな人の努力があることを知ることができた。

【小学生】

1. お兄さん、お姉さんと色々なゲームを体験できたか
[とてもよくできた 93% よくできた 7%]
2. 小学生・お兄さん・お姉さんと仲良く過ごせたか
[とてもよくできた 88% よくできた 7% あまりできなかった 5%]
2. また参加したいと思うか [とても参加したい 88% ちょっと参加したい 12%]
・また来年あれば行きたいです。今日は楽しかったです。
・いい体験ができて良かったなと思いました。お兄さん、お姉さんにも感謝したい。

(2) 成果

- ・参加者募集では、定員を上回る申込みがあり、群馬 VYS 連絡協議会と協議の上、全員を受け入れることができた。
- ・準備から片付けまで参加者が主体的に活動している様子が見られ、ボランティア体験のよい場となった。
- ・児童の補助係を担当する参加者に対し、群馬 VYS 連絡協議会から子どもとの関わり方等の指導があるなど、手厚いサポートがみられた。
- ・優勝班には手作りメダルを用意し、また、参加賞として缶バッジを配布するなど児童への満足度を向上させる工夫や配慮がされていた。

(3) 課題

- ・例年、児童の申込み数が少ない傾向が見られる。周知方法の工夫や、事業の趣旨がより伝わる魅力的なチラシの作成に努めたい。
- ・群馬 VYS 連絡協議会の団体紹介で、結成目的や活動内容等を紹介できた一方で、興味をもった青少年との連絡手段等が少なく、入会への一歩に繋がりにくいのが現状である。

6 事業の様子



準備活動



アイスブレイク



しっぽとり



紙コップクレーンリレー



ボッチャ



モルック

担当 町田 友佳

「地域団体応援事業(親子で楽しむ性教育フェスタ)」

1 事業目標

県内で活躍する団体や活動場所を探している団体等にアプローチし、関係者と対話しながらニーズを掘り下げ、青少年会館を拠点とした集いや活動を提案する。また、協働でプログラムを実施する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年9月23日(月)
 (2) 参加対象及び募集人数：県内在住親子(募集人数なし)
 (3) 参加状況

ア 参加者合計456名

内 訳	未就学児 ～小学生	中学生	高校生	専門短大学生	社会人 保護者	総計
合 計	76	0	0	0	380	456

イ スタッフ ・ボランティア7名(高校生)

・講師4名 ・その他45名(体験ブーススタッフ)

ウ 延べ参加人数(参加者×日数) 456名×1日＝456名

3 事業実施のポイント

- ① 団体(性教育推進プロジェクト)が、昨年度の課題として挙げていた広い会場確保の対策として、青少年会館1階・2階の全ての部屋を講演・各ブースの会場(8会場)として使用した。
- ② 講演会の収容人数を多くするため、多目的学習室のパーティションを外しオープンにして椅子を並べた。
- ③ キッチンカーを3台玄関前に出店させたり、プレイホールを飲食ブースとして開放したりするなど、午前・午後を含めて1日参加できるようにした。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
9月 23日 (月)	○性教育講座 ・性教育は生教育一家庭からのアプローチ ・学校では教えてくれないカラダとイノチのお話 ○体験・ワークショップ ・妊婦体験 ・命のフォトブース ・自己肯定感を高める SELFLOVE ワークショップ ・デリケートゾーンソープワーク ショップ ・赤ちゃん抱っこ・子宮模型の展示 ・女性に寄り添うはりとお灸 ・性教育絵本読み聞かせ ・性教育かるた・カード遊び ・バルーンアート・缶バッジプレゼ ント	○性教育講座 ・性教育×ネットトラブラー自分 を守るネットのトリセツ ・いろいろな性-LGBTQ ってなん だろう ○体験・ワークショップ ・妊婦体験 ・命のフォトブース ・自己肯定感を高める SELFLOVE ワークショップ ・デリケートゾーンソープワーク ショップ ・赤ちゃん抱っこ・子宮模型の展示 ・女性に寄り添うはりとお灸 ・性教育絵本読み聞かせ ・性教育かるた・カード遊び ・バルーンアート・缶バッジプレゼ ント	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・大満足 58.4%、満足 34.4%、計 92.8%と、参加者が満足のいくイベントとなった。
- ・とても楽しかったです。来年度も参加したいです。
- ・初めて参加しましたが、子どもたちも興味を持ってくれてよかったです。
- ・家でなかなか性教育をする機会がないため、このようなイベントがあるとありがたいです。また参加したいです。
- ・小1、年少、1歳児でイベント参加しました。アンケートには、参加できたものにチェックを入れてあります。本来であれば全て参加したい魅力的なものばかりでした。室内イベント、規模感、広々とした飲食ブースの確保、キッズスペースや子どもの遊べる空間、親にとっても学べる講義、またそのサポートとして子どもを預かってくれるサポーターさん、ハイハイの子どもから小学生、大人まで楽しく過ごせて満足のいくイベントでした。家族みんな次も行きたい！と、今年一番のイベントとなりました。キッチンカーも食材選びから健康を気遣っているこだわりの方々の参加で感激しました。
- ・まずは、ボランティアの数の多さにビックリしました。老若男女色々な方がボランティアにいて、素晴らしいと感じました。出店者さんも性教育に特化していて、このようなつながり方もあるんだなと思いました。アナウンスの仕方も素敵でした。バルーンは子どもさん達、目を輝かせていましたね。2回目の開催で、ここまでの来場者がみえるのは素晴らしい。どんな形にしても、まずは知ってもらうことが大切だと思いますので、これから性教育の言葉が群馬県で広がっていくことを願っています。

(2) 成果

- ・来場者数は、前回は大きく上回る数となった。(300→456)
- ・体験ブースやワークショップ会場の広さを確保したことや、飲食ブースをプレイホールに設けたことで、来場者が伸び伸びと余裕を持ってフェスタを楽しむことが出来た。
- ・フェスタ終了後、主催団体から次年度も青少年会館を会場で実施したいとの要望を受けた。

(3) 課題

- ・準備していた椅子が足りなくなってしまう講義があった。会場のスペースの関係もあるが、予備の椅子を準備しておく必要があった。

6 事業の様子



性教育絵本読み聞かせ



赤ちゃん抱っこ



妊婦体験



スタンプラリー達成缶バッジづくり



性教育講座



性教育カルタ

担当 中村 洋

(5) 情報収集・情報提供システム事業

「ぐんま青少年ねっと」

1 事業目標

ホームページ・ブログ・SNS により青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信し周知を図る。また、学習コーナーの利用者がインターネットを利用できる機器を貸し出し、青少年の学習や情報収集を支援する。

2 事業概要

(1) 期日：通年

(2) 参加対象及び募集人数：青少年、青少年指導者及び地域住民

(3) 利用状況

学習情報コーナー利用者 95 名

R7.3.31 時点

内 訳	幼稚・ 保育園	小学生	中学生	高校生	大学・ 高専生	その他 学生	勤労青 少年	指導者	総計
参加者数		8	12	20	30		25		95

3 事業実施のポイント

- ① 群馬県青少年会館ホームページの日常管理
施設利用案内や主催事業等の最新情報の掲載（更新）作業を行った。（合計 62 回）
- ② 群馬県青少年会館ブログ・Twitter（現 X）・Instagram の記事投稿
今年度から Instagram を開設し、ブログ・Twitter（現 X）と並行して主催事業・施設利用・館内の様子などについて情報発信した。更新回数は合計で 320 回と、前年度(195 回)を更に上回った。広報媒体として Instagram を採用する事で、より若年層向けの情報発信ルートの整備が期待される。
Twitter（現 X）では引き続きトレンドキーワードなどを活用し、会館の認知度を高めるための投稿を行った。
ブログでは、スクール形式以外のレイアウトで会議室利用を促進するために、会館の利用団体の紹介も掲載した。
- ③ 学習情報コーナーの運営
学習・ワークスペースとして、より広く活用してもらえるように周知等を行った。
- ④ 会館における青少年関係情報提供システムの運用
情報機器の管理及び館内システムの保守等について、委託業者を通して行った。
- ⑤ 1 階ロビーでの Wi-Fi 環境提供
月額フリーWi-Fi のサービスが今年度で終了したため、新たに買い切りでフリーWi-Fi を設置した。

4 事業評価

(1) 参加者の満足度

・当会館ホームページの閲覧による施設利用や主催事業に関する問い合わせが多く、インターネット活用の効果を感じられる。施設案内や事業内容などを明確に伝えているため、対象者にとって有益な情報として活用されている。

(2) 成果

・ユーザー数、ページビュー数、organic search 等の数値が全体的に昨年度よりも底上げされている事から、会館の認知度については高められていると考えられる。
・新たに導入したフリーWi-Fi は接続までの手順が簡単であるため、今までと比べてより有益な施設サービスが提供出来るようになったと考えられる。

(3) 課題

- ・情報提供システム運用における予算は、以前に比べて縮小傾向である。さらには、近年の物価高騰の影響も含め、限られた予算内でシステム運用が難しい状況である。本来であれば、職員用パソコン等は指定管理期間毎に全てを入れ替えたいところではあるが、中古パソコンを活用している。
- ・昨年度(172名)と比べて、学習情報コーナーの利用人数は減少傾向である。定期的に利用していた小学生・勤労青少年の利用頻度が減った事が主な要因である。長期休暇前等のタイミングでの定期的な周知などを検討するべきと考える。

5 事業の様子



ホームページ



ブログ



Twitter(現 X)



Instagram

担当 小林 俊輔

「青少年活動事例調査」

1 事業目標

青少年会館の運営及び主催事業の参考となる公共施設及び青少年対象のプログラム等について情報収集する。また、社会教育関係者や青少年団体、地域団体が実施・参加する事業や研修等に職員が赴き、関係者と情報交換を行うとともに、団体や社会教育関係者との今後の業務に向けた連携・協働関係を築く。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年4月1日～令和7年3月31日

(2) 対象：青少年施設の施設運営、プログラム、NPO法人等の活動、青少年団体指導者、市町村で実施される事業等

(3) 調査状況

調査日	施設、団体名、イベント名等	目的
6月12日	令和6年度第1回市町村社会教育関係職員ステップアップ講座 「eスポーツ体験を活用した公民館講座をつくろう」 (前橋合同庁舎大会議室)	・令和7年度以降の新規事業の企画を検討するにあたっての参考情報の収集 ・県のeスポーツ推進について ・eスポーツを活用した講座開催の意義、予算、機器の準備、講師選定等 ・幅広い年齢層の参加が可能というメリットを生かし、世代間交流をねらいとした事業企画が可能 ・機器の購入というハードルがあるが、簡易的な実施であれば比較的安価に可能 ・事業終了後も館内に設置し活用
11月10日	前橋市高校生学習室 (アクエル前橋)	・学習・ワークスペースを充実し来館者の増加を図るための先進施設視察 ・高校生の利用状況、高校生へのボランティア周知と効果の可能性、設備の視察、机の配置、飲食スペースの状況、参考書、資料等の設置状況等
2月28日	株式会社リクスルトータルサービス北関東支店 (県公社総合ビル)	・次年度の企業コラボ事業における連携・協働の可否についての判断材料を得るための情報収集 ・同社は前橋市とのSDGsパートナー契約を結んでおり児童館、公民館等でのワークショップを年間通して実施中 ・体験活動の内容、対象、年齢、実施可能時期等について聞き取り

(4) その他

資料収集 県立青少年施設要覧、行事カレンダー、広報紙、事業チラシ等

専門誌購読 一般財団法人日本青年館発行「社会教育」(月刊誌)

3 事業実施のポイント

- ① 新規事業の企画に当たり、社会教育関係者を対象とした研修講座に参加して、新たな分野の事業実施の意義、課題、ニーズ等を把握した。
- ② 青少年の居場所づくりの観点から、高校生等を対象とした学習室を視察し、利用の状況や施設設備の状況等参考となるデータを収集した。
- ③ 企業と連携、協働で行う事業について情報収集した。該当企業の活動状況を確認し、子どもたちにとって興味ある活動が提供できることが確認できた。

4 事業評価

(1) 成果

- ・今の時代の青少年にとって大きな興味関心事項のひとつとしてeスポーツが挙げられるが、事業団の新規事業として企画実施する際の課題、準備、環境整備等の情報収集ができた。相当の予算措置が必要となるが、内容、方法等を検討することにより実施がまったく不可能ではないことがわかった。
- ・学習・ワークスペースを充実させるにあたり、先進施設である tsukurun・前橋高校生学習室を訪問した。設備配置や掲示物、接客対応の状況を視察し大変参考になった。また、オープンスペースの活用や観葉植物の配置等について居心地の良い雰囲気作りを取り入れたい。
- ・企業コラボ体験活動の連携協力企業の情報収集ができた。
- ・住宅設備機器・建材及び建築工事企業である株式会社リクシルトータルサービス北関東支店が行っている活動事例や児童生徒を対象とした体験教室の実績等について具体的に情報収集ができた。

(2) 課題

- ・青少年に有意義な体験活動を提供するため、また社会教育団体等との協働で事業を推進するため、さまざまなノウハウを持つ団体や NPO 等と相互協力体制を築くことは大変重要である。また、そのための対話と情報交換には十分な時間が必要である。
- ・団体等のプログラムに関する情報収集等の機会は青少年会館の事業の取り組みや利用促進 PR の場として有効であり積極的に活用する。

担当 中村 洋

(1) 青少年活動支援事業

「青少年会館友の会事業」

1 事業目標

群馬県青少年会館で活動するボランティア団体「青少年会館友の会」と連携し、青少年の健全育成活動を共催・協働で実施する。また、会員に青少年会館の各事業への参画やボランティア実践の機会を提供する

2 事業概要

(1) 期日：令和6年4月～令和7年3月

(2) 参加対象及び募集人数：①アドバンスユニット 大学生 43名、社会人 1名
②指導者養成ユニット 社会人 6名

(3) 参加状況

① アドバンスユニット「ゆめすくーる」

ア 参加者合計 407名、申込人数 134名（キャンセル 10名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数 10/13		69	33					102
参加者数 10/27		64	36					100
参加者数 11/17		64	38					102
参加者数 12/15		66	37					103

イ スタッフ・ボランティア 44名

ウ 延べ参加人数（全4回） 参加者 407名、友の会会員 115名

② 指導者養成ユニット「クリスマスリースづくり」

ア 参加者合計 2名（社会人）、申込人数 2名（キャンセル 0名）

イ 講師（ボランティア） 1名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数） 2名×1日＝2名

3 事業実施のポイント

① アドバンスユニット「ゆめすくーる」

学生会員が児童対象の体験活動を企画・立案し、3コースを運営した。

② 指導者養成ユニット イベントへの運営協力

「性教育フェスタ」等のイベントでブース運営・バルーン技術指導を行った。

③ 指導者養成ユニット「クリスマスリースづくり」

会員が自主的に活動を企画し、天然素材を活用したリース作りを伝授した。

4 日程

日時	会議等	午 前	午 後
7月 7日(日)	ゆめすくーるmini	中高生ボランティアの指導	運営
8月24日(土)	アドバンスユニット会議		リハーサル等
9月23日(月)	「性教育フェスタ」	ブース運営協力	午前と同様
9月28日(土)	アドバンスユニット会議		リハーサル等
10月13日(日)	「ゆめすくーる」①	A 世界のことを学ぼう B レクリエーション・工作 C パソコンの正しい使い方	午前と同様

10月19日(土)	「交流フェスタ準備」		バルーン飾付け等
10月27日(日)	「ゆめすくーる」②	第1回と同様	午前と同様
10月28日(月)	「バルーンアートをつくろう」	制作指導	
11月16日(土)	「クリスマスリース作り」	制作指導	
11月17日(日)	「ゆめすくーる」③	第1回と同様	午前と同様
12月15日(日)	「ゆめすくーる」④	第1回と同様	午前と同様

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ①「ゆめすくーる」
【参加者：満足度】
 楽しかった 84、まあ楽しかった 5、あまり楽しくなかった 3、つまらなかった 1、未回答 12 ※人数
【参加者：交流活動（仲良く過ごせたか）】
 とてもよくできた 64、まあまあできた 30、あまりできなかつた 1、できなかつた 1、未回答 9※人数
 (B参加者) チームで協力しながら風船を投げるのが楽しかった。
 (B保護者) 学生スタッフは、挨拶だけではなく、プラスの言葉がある。社会人としても人間関係を良く対応していけると思う。
 (友の会) 1年間の活動を通して、企画力・コミュニケーション力を上げることができた。
- ②「クリスマスリースづくり」
 (参加者) 自然素材の魅力を生かして作品を完成することができた。

(2) 成果

- ・アドバンスユニットは、「ゆめすくーる」の開催に向けて打合わせ・リハーサルを重ね、有意義なプログラムを構築することができた。また、企画・運営を通し、学生自身の成長に繋げることができた。
- ・指導者養成ユニットは、イベントでバルーンアートの作品づくりを提供する等、活躍の場が増えた。各イベントの趣旨に沿い、児童や親子を対象とした体験活動の充実化を図ることができた。

(3) 課題

- ・「ゆめすくーる」は、今年度から事業担当の職員が一部の事務作業を補佐した。本来ならば友の会会員による運営が望ましいため、ユニットの状況を把握しながら適度な支援をするよう努めたい。
- ・指導者養成ユニットは、新規加入が無い状態が続いている。現会員が加入を呼びかけているものの、成果に繋がらない現状である。ユニットの存続について、会長及びユニット会員と共に検討したい。

6 事業の様子



ゆめすくーる



ブースの運営協力



ステージ飾り付け

担当 山田 貴史

(2) 地域連携協力事業

「地域連携協力事業」

1 事業目標

市町村や県内団体及び学校等の要望に応じて、関係者と連携を図り、協働したプログラムを実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年4月～3月

(2) 対応状況

対応件数 5件

内 訳	小学校	中学校	高校	大学	団体	施設	その他	総計
合 計	1		1	1	1	1		5

3 事業実施のポイント

- ① 小学生の施設見学や高校生・大学生のインターンシップや研修等では事前に学校の担当者と協議を重ね、有意義なプログラムを提供した。
- ② ライオンズクエストワークショップは共催先の都合と教職員の参加しやすい時期について検討を重ね、12月に実施した。周知は学校ばかりでなく、幅広く事業説明を行った。
- ③ 他施設との連携では館外でのイベント等に積極的に参加し、事業団のPRに努めた。

4 日程

日程	プログラム名	内容	連携・共催団体等
5月29日 (水)	町たんけん（小学校2年生の施設見学）	館内案内、プログラム案内等	前橋市立荒牧小学校
6月5日 (水)	体験の風をおこそう運動	第1回実行委員会出席	国立赤城青少年の交流の家
3月5日 (水)		第2回実行委員会出席	
2月24日 (月)		令和6年度子ども体験ワークショップ	
7月9日 (火)	第1回ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会	事前打合せ	ライオンズクラブ国際協会 333-D 地区
12月25日 (水)	ライオンズクエストワークショップ	ライフスキル教育の理解と演習	
10月24日 (木)～ 25日(金)	高校生短期インターンシップ受け入れ	施設見学及び青少年育成事業団の業務説明と体験	県立前橋商業高等学校
1月19日 (日)	社会教育実践研修Ⅱ受け入れ	青少年会館の役割と職員の業務に係る説明、青少年育成事業に関する講義及び館内見学等	群馬大学共同教育学部

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

◆高校生インターンシップ

- ・学校行事などで日頃、公共施設にはお世話になっていたもので、そこから興味を持った。思ったより力作業があって嬉しかった。今回の活動のおかげで自分の就職への視野が広がり、様々な体験をさせてもらえて凄く嬉しかった。青少年会館では色々なイベントがあり、興味がわいてきたので、友達を誘って行ってみたい。
- ・ボランティアやイベントの開催などの想像をしていたが、それら以外にも会議室や宿泊の利用など、思っていたより様々な利用ができるのだと感じた。
また小学生から高校生など、様々な年代に対応するイベントがあり、幅広く活動しているのだと感じた。

(2) 成果

◆体験の風をおこそう運動

- ・ひのきの箸づくりで体験ブースを出店した。普段の生活で使うことがない道具（カンナ）を用いた製作体験を提供できた。また、他の施設や団体の体験プログラムを見る機会になった。

◆ライオンズクエストワークショップ

- ・教員や企業経営者等の参加者が、学校の授業において人間形成に必要な学力以外の学びや体験をどのように取り入れたらよいか意見交換できた。また、模擬授業の立案と発表で具体的な手法を体験してもらうことができた。

◆社会教育施設の現場学習（群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」）

- ・教職員を目指す大学生に社会教育や青少年健全育成事業の具体例を示し、理解してもらえた。

(3) 課題

- ・ライオンズクエストワークショップは、小中学校2学期終業式翌日の開催になったため、参加者が例年に比べ少なかった。冬期休業中の開催となると、年度によって開催日が限られてしまうため難しさを感じる。主たる対象者である学校の教職員が参加しやすい開催日と、募集方法については引き続き共催者と検討していきたい。

6 事業の様子



町たんけん①



ライオンズクエストワークショップ①



高校生インターンシップ①



町たんけん②



ライオンズクエストワークショップ②



高校生インターンシップ②

担当 中村 洋

(3) 広報事業

「新年交歓会」

1 事業目標

青少年教育行政関係者や青少年団体関係者等が一堂に会し、青少年健全育成について情報交換を行うとともに、群馬県青少年会館及び公益財団法人群馬県青少年育成事業団の諸事業を広報し、その理解促進を図る。

2 事業概要

(1) 期日：令和7年1月18日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：青少年行政関係者・青少年団体関係者等 60名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 65名、 申込人数 65名（キャンセル 0名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数							65	65

イ 出演者等 ステージ出演者・関係者 31名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）65名 ×1日 = 65名

3 事業実施のポイント

- ① 出席者同士の交流を深める場として、ウェルカムコーナー（呈茶）・歓談の時間を設けた。
- ② ステージの出演団体は、青少年会館の施設利用団体・主催事業に参加した団体を選出した。
- ③ 当会館を活動拠点とする青少年団体の会員に司会・呈茶を依頼すると共に、各団体の広報等を配布し、出席者に団体の活動を周知した。
- ④ 当事業団の社会教育事業についての理解を図るため、開式前のオープニングムービー（スライド）で主催事業の内容を投影した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 18日 (土)	ウェルカムコーナー(呈茶) オープニングムービー 開会 理事長あいさつ 祝辞 来賓紹介 和太鼓演奏 ギター・マンドリン演奏 歓談 閉会		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・ステージ出演団体は、出席者が明るく前向きな気持ちになれるよう、新春にふさわしい演奏を披露した。
- ・呈茶のコーナー、歓談の時間を設けたため、多くの方がゆっくりと会話でき、交流の輪を広げることができた。

(2) 成果

- ・呈茶のコーナー、歓談の時間を設けたため、多くの方がゆっくりと会話でき、交流の輪を広げることができた。
- ・当会館にゆかりがある団体にステージ・司会・呈茶を依頼したため、出席者に当会館と青少年団体等との連携・協力について理解を得ることができた。
- ・参加費を低額に抑え、短時間のプログラムを構築したため、気軽に参加することができた。

(3) 課題

前回に続き、会食の場を設けないプログラムで実施したが、今後この形式が定着することも考えられる。好評を得たプログラムは継続しつつ、演目のマンネリ化を防ぐ必要がある。交歓会であるため、プログラムを通して交流を深められるよう工夫したい。

6 事業の様子



ウェルカムコーナー(呈茶)



スライドショー(事業報告)



来賓祝辞



和太鼓演奏



ギター・マンドリン演奏



歓談の様子

担当 山田 貴史

(4)補助事業

「団体補助」

1 事業目標

団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く 5 団体へ補助金を交付する。 (4 万円×5 団体)
--

2 事業概要

青少年団体が安定した事務局運営ができるよう、会館に事務局を構える 5 団体（群馬県青少年団体連絡協議会、日本ボーイスカウト群馬県連盟、一般社団法人ガールスカウト群馬県連盟、公益社団法人群馬県子ども会育成連合会、群馬県青年団連合会）に対して、1 団体あたり 4 万円の補助金（青少年団体育成費）を交付した。

担当 山田 貴史

「青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）」

1 事業目標

不登校、非行、ひきこもり、ニートなどの様々な悩みを抱えている青少年のために、相談活動や体験活動をとおして立ち直りを支援する。また、再び勉強をしたいという青少年のために、各種情報や勉強場所の提供や学習相談も行う。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
(2) 参加対象者及び募集人数：中学生・高校生・概ね20歳未満の若者及びその保護者・関係者
(3) 参加状況
ア 参加者合計
月別状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談申込者数	8	1	6	8	4	3	0	3	2	1	0	0	36
相談実施数(面接、電話、メール等)	27	20	62	93	51	55	119	118	67	65	57	11	745
進路相談会					69		51						120
体験活動申込み人数			1	4	2	1	4	4	4	2	5		27
(内 申し込み人数新規)			1	4	2	1	3	2	2	1	2		18
体験活動実施件数			1	4	2	1	4	4	4	2	4	0	26

※1 当該月の新規相談対象生徒数

※2 相談実施数は、対象生徒・保護者・教員等からの延べ相談数

※3 体験活動申込みは、実人数

イ スタッフ ・体験活動コーディネーター (CN) 6名
・事業コーディネーター (会館職員) 2名

3 事業実施のポイント

◎悩みを抱える青少年の心をほぐし、自己肯定感や自信を高め、立ち直りを支援する

① 体験活動の充実

- ・CN、事務局が参加する事前の相談で本人の希望にあった事業所等の紹介
- ・CNによる体験活動実施前の本人・学校・事業所との連携の潤滑化

② 再学習支援の充実

- ・学習方法の相談、進路情報の提供
- ・進路相談会での配布資料の充実及び事前予約による面談

4 日程

○ 合同会議

第1回 4/12(金) 10:00～12:00 委嘱状交付、令和6年度青少年自立・再学習支援事業について
令和5年度活動状況報告等

第2回 7/11(木) 10:00～12:00 CN対象研修会、活動状況報告、事例報告、進路相談会について

第3回 12/ 6(金) 10:00～12:00 活動状況報告、事例報告

第4回 3/ 6(木) 10:00～12:30 CN対象研修会、活動状況報告、令和7年度に向けて

○ 進路相談会

第1回 8/25(日) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館

第2回 10/26(土) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館

事前予約で希望のあった人を対象に、CN、ステップアップ学習相談員、前橋清陵高校、太田フレックス高校、高崎高校通信制、桐生高校通信制、クラーク記念国際高校、わせがく高校、第一学院高校、おおぞら高校、NHK学園高校、白根開善学校がブースで対応した。参加者には通信制高校やサポート校等の資料を配布した。

5 事業評価

① 参加者の満足度（アンケート結果及び活動状況所見）

◎ 体験活動

・覚えられないこともあり、毎日やっている店の人はすごいと思った。家に帰ると疲れたが、早く終われとは思わなかった。店長は厳しいけれど優しく教えてくれた。迷惑をかけることもあったが、よく面倒を見てもらいありがたかった。前は、ドヨンとして花が枯れた感じであったが、今は花が咲いた気分。
・昨日は早く起きなければと緊張していた。小さな子どもと遊べるか心配であった。子どもからお兄ちゃんと呼ばれて、かわいいと感じた。最後は追いかけっこをして楽しく過ごすことができた。終えてみてちょっとさみしいと感じた。
・大変だったが体を使って健康に良いと思った。楽しかった。人参を抜くには両手を使い力があることがわかった。また、まっすぐ抜かないと途中で折れることもわかった。
・すごく楽しかった。予約本を探すために地下の書庫に行くことができ、多くの本がある事にびっくりした。多くの業務があったが、しっかり話を聞いて取り組むことができた。

◎ 再学習支援

○ 進路相談会

・進路について詳しく知ることができてとても良かったです。進路の視野が広がったので色々な選択肢ができました。
・不登校の子やひきこもりなど、本人も悩んでいます。家族や親はそれ以上に悩んでいるので、こういう相談会があるとありがたいです。ありがとうございました。

- ・他の説明会で私も本人も自信をなくしてしまい、今日は本人は参加できませんでした。このような会に参加していればもっと前向きに進めたのと思います。
- ・ネットで情報を探しても、知りたい事がわからないままでしたので、今回参加して良かったです。

② 成果

◎体験活動

・体験活動申込みが18名(中学生15名、高校生2名、中学卒業生1名、高校卒業生0名)、27回体験活動を計画したが1件家庭の事情で中止となり、延べ26回の実施となった。

・保護者や学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の努力により居場所を感じることができるようになった生徒が、周囲に目を向け始めたとき、体験活動が背を押してくれる。各事業所で初めて触れる作業内容ができた時の喜びは、自己肯定感につながり、前へと進む力となる。体験を終えたときの様子を見ると、表情が明るくなり、やりきったという自信がうかがえた。すぐに不登校が改善するわけではないが、将来について考え始めるきっかけとなっている。

・中学3年生5名については、進学決定者1名、進学希望者2名、就職希望1名、未定1名である。中学2年生7名については、毎日登校1名、登校回数が増えた4名、つなサポ参加1名、フリースクール1名である。中学1年生3名については、不登校であるが、次年度体験活動を希望している2名、フリースクールを考えている1名。高校生2名については通信制高校やサポート校に通学しており、卒業に向けて頑張っている。中学卒業生1名は、初めての労働に手応えを感じ、来年度の体験を希望している。

◎再学習支援

○進路相談会(全体)

・中学生21名・高校生2名・保護者等42名・退学既卒者1名、学校・行政関係1名、関係機関・事業団等43名の計110名の出席があった。

・参加者は県内各地から参加し、前橋市9組、高崎市10組、伊勢崎市12組、みどり市2組、玉村町2組、甘楽町2組、安中市1組、計38組であった。

・相談内容は悩みや進路29件、進路や高卒認定91件 計120件。進路決定について参考になる相談が展開された。

○学習相談

・体験活動は実施せず、学習相談だけの対象者は18名。定期的な面談や電話相談等、実態に応じて支援を展開した。

③ 課題

◎体験活動

・体験活動の広報に課題を感じている。参加状況に偏りがあり、多い学校では3件対応している場合もある。体験活動による生徒の変化を間近で感じることでできた学校では、次の希望者が続く場合が多い。体験活動の具体例から素晴らしさを伝えていきたい。

◎再学習支援

・進路相談会への参加者はやや減っている。参加者から、インターネットや入学案内からではよく分からないことが、直接話すことで解決できたや、対応者が学校の事情に詳しく分かりやすかった等の感想があり、進路相談会有用性を感じる。このあたりを知らしめたい。

6 事業の様子



①合同会議(第2回・7月)



②進路相談会(第1回・8月)



③体験活動【農業】



④体験活動【美容室】



⑤体験活動【図書館】



⑥事業所への感謝状贈呈訪問

担当 山口 行輝

令和6年度青少年自立・再学習支援事業
(地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業)

1 事業目標

学力格差の解消及び高等学校中退者等の進学・就労に資するよう、高校中退者等を対象に高等学校卒業程度の学力の習得を目指し、学習相談及び学習支援を行う。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年4月1日～令和7年3月14日
 (2) 参加対象及び募集人数：高校中退者・中学校卒業後進路未決定者等
 (3) 参加状況

①学習相談

(単位：人)

月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
当月新規学習相談者数			14	4	3	3	3	0	0	2	1	3	2	0	35
当月支援学習相談者実人数			14	11	11	16	10	3	8	7	10	6	5	2	103
のべ人数	電話 メール	本 人	13	1	1	5	3	0	0	2	4	3	4	0	36
		保 護 者	4	6	9	8	5	0	3	8	10	2	1	0	56
		そ の 他	2	1	0	1	0	0	0	1	1	2	3	0	11
	面談	本 人	9	17	22	13	7	7	9	6	1	1	7	2	101
		保 護 者	5	3	5	6	4	0	5	3	1	0	2	0	34
		そ の 他	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5

②学習支援(学習会参加)

(単位：人)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	実人数	3	5	7	7	1	3	4	1	1	1	3	2	38
	のべ人数	5	13	20	10	1	8	7	2	1	1	3	2	73

3 事業実施のポイント

- ① 当事業の開始時に、今年度は継続の3人の大学生(群馬大学共同教育学部3年生2名・医学部3年生1名)に学習支援員を依頼した。事業内容を理解し、個に応じた支援ができた。さらに5月から1名(群大医学部1年)追加し、9月にも共同教育学部1年生1名を加え、計5名体制を取った。
- ② 支援員の業務日誌を有効に活用し、継続的な支援を心がけた。また、学習会事前事後には支援員と相談員との打合せ報告を短時間に行い、学習相談者への支援の充実に努めた。
- ③ 学習相談員と相談者が連絡を取りやすくするために、当事業専用のスマートフォンを活用した。
- ④ 二人の学習相談員と担当会館職員が学習相談者の情報を共有し、学習相談者への支援が円滑にできるように、相談員の業務日誌・引き継ぎカード・短時間の打ち合わせ・月例の情報交換会議等を活用した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
4月～3月随時	学習相談	学習相談	
4月～3月主に土日	学習相談	学習会 年間60回開催	
8月末(8月25日)		第1回進路相談会	
10月末(10月26日)		第2回進路相談会	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度 学習相談者のアンケートから抜粋

- ◆Aさんの感想：英語を教えていただきですごく分かりやすかったです。地理の図の読み方が分かって良かったです。がんばって覚えます。
- ◆Bさんの感想：初めてということで緊張していましたが、学習支援員さんが丁寧に分かりや

すく教えてくれたので、これからがんばりたい。

◆Cさんの感想：また、明日か来週の学習会に参加したいです。集中して勉強ができました。分からないところが分かるようになりました。

◆Dさんの感想：好きなように勉強ができてよかったです。問題集などを貸し出してもらえたので、よかったです。

◆Fさんの感想：やっぱり英語が大の苦手です。次回からも英語に力を入れてがんばります。

(2) 成果

- ・今年度の学習会参加者は 13 人だった。昨年 17 人に比較して、減少したのは、心身の不調やアルバイト・就業の関係で参加が難しい相談者が多かったのも原因の一つと思われる。その代わり、来館した折には、自学の相談やワーク・問題集などの貸出を行った。
- ・学習会では継続した取り組みとして、距離を保って着席・事後の消毒等、感染対策を十分に図って実施した。面談時・学習支援時は特に留意し、個の特性に配慮しつつ事業運営に支障がないよう留意した。
- ・新規相談者が当事業の情報を入手した経路は、G-SKY Plan や地域の教育支援センター（適応指導教室等）、知人からの紹介、心療内科、高校からの情報があり、今年度もインターネット検索が目立ち、広報活動や地域・団体等との連携成果が現れている。

<第1回高卒認定試験について・・・3名受験>

○学習会に参加していた2名の受験結果は次の通りである。

●5科目受験・5科目合格・・・R6 第2回 残り3科目受験予定

●3科目受験・1科目合格・・・R6 第2回 残り5科目受験予定

○学習会に参加していない1名の受験結果は次の通りである。

●5科目受験・5科目合格・・・R6 第2回 残り3科目受験予定

<第2回高卒認定試験について・・・4名受験>

○学習会に参加していた3名の受験結果は次の通りである

●3科目受験予定・3科目合格・・・全科目合格(第1回の科目合格者)大学進学を目指す

●5科目受験・1科目合格・・・(第1回の科目合格者)・・・R7 残り4科目受験予定

●5科目受験・4科目合格・・・R7 残り4科目受験予定

○学習会に参加していない、面談のみの1名の受験結果は次の通りである。

●3科目受験・3科目合格・・・全科目合格・・・専門学校進学 (第1回の科目合格者)

以上、今年度全科目合格者2名・科目合格者2名

- ・当事業の学習者(相談者)は、高卒認定試験後、そのほとんどが大学・専門学校に進学(または進学に向けて学習継続)、仕事に関係した資格取得を予定している。
- ・学習者については、本人の状況を把握し、本人への連絡や情報提供については適切な時期を見計らって実施し、個別支援の充実に努めることができた。

(3) 課題

- ・高校中退者や社会人の中にも、今後の進路の1つとして、高校卒業・高卒認定資格取得を希望しているにもかかわらず、高卒認定試験の制度やステップアップ事業の認知がまだ十分とは言えない。インターネット検索が増加してきているので必要とする人に情報が届くよう、引き続き広報活動の工夫が望ましい。
- ・例年相談者の中には、特別な配慮が必要な方もいる。生育歴・家庭環境等、デリケートな面もあるので、本人の状況を確認しつつ丁寧に接し関わっていく。
- ・学習会の会場が群馬県青少年会館のため、交通の便を考えると、送迎が必要になるケースが多いが、個々工夫して来館している。
- ・基礎学力の不足があり、特に中学校段階の学習の補完については、引き続き新設された夜間中学校との連携を視野に、学習相談者へ周知をしていきたい。

担当 金子 勉

2 重要な契約等に関する事項

指定管理関係

名 称 (契約期日)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する基本協定 (令和2年3月13日)	指定管理者として群馬県青少年会館の管理及び運営を5年間（令和2年度～令和6年度）実施する上での基本項目の協定。 令和2年12月1日：管理費用の総額を342,084,756円に変更。 令和3年3月31日：管理費用の総額を345,507,390円に変更。 令和5年4月1日：協定本文第18条中「群馬県個人情報保護条例（平成12年群馬県条例第85号）を削除し、「その他法令」を加える。 協定別記2「群馬県青少年会館 管理業務等仕様書」中、「群馬県個人情報保護条例」を「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）その他法令」に改める。 協定別記3「個人情報取扱特記事項」を改める。 協定別記4を改める。	群馬県教育委員会 教育長	345,507,390 (変更後)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する年度協定書 (令和6年4月1日)	上記基本協定書に基づき、群馬県青少年会館の管理及び運営の1年間（令和6年度）の管理費用、特定業務等の協定。 令和7年3月31日：管理費用を62,541,959円に変更。	群馬県教育委員会 教育長	62,541,959

受託事業関係

名 称 (契約期日)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
令和6年度青少年自立・再学習支援事業 「G-SKY P l a n」 (令和6年4月1日)	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなどして生活を充実させ、不登校やひきこもりからの脱却や社会的自立を支援する。また、高校中退者等の再学習のための相談・支援体制の充実を図り、各種情報の提供を行う。	群馬県教育委員会 教育長	4,999,975
令和6年度青少年自立・再学習支援事業 「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」 (令和6年4月1日)	高校中退者等を対象とした学び直しのための支援を行う。 高校卒業程度認定試験等に関わる相談及び情報提供と、希望者に応じて会館での学習支援を行う。	群馬県教育委員会 教育長	2,700,000

3 役員会等に関する事項

(1) 理事会、評議員会

区 分	開催期日等	出席者数	議 事 事 項	審議結果
第 4 1 回 理事会 (定時)	令和6年 5月28日	理事7名 監事2名	〔承認事項〕 第1号 令和5年度事業報告に関する件 第2号 令和5年度決算に関する件 〔決議事項〕 第1号 第32回評議員会(定時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり決議 資料を基に報告
第 3 2 回 評議員会 (定時)	令和6年 6月18日	評議員 4名 理事2名 監事2名	〔報告事項〕 第1号 令和5年度事業報告について 第2号 理事長の職務の執行状況について 〔承認事項〕 第1号 令和5年度決算に関する件 〔決議事項〕 第1号 評議員の選任に関する件	資料を基に報告 資料を基に報告 原案どおり承認 賛否を諮り決議
第 4 2 回 理事会 (臨時)	令和6年 8月22日	理事6名 監事2名	〔承認事項〕 第1号 次期指定管理者指定申請に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案に加筆修正の上申請することを承認 資料を基に報告
第 4 3 回 理事会 (定時)	令和7年 3月18日	理事8名 監事2名	〔決議事項〕 第1号 令和7年度事業計画に関する件 第2号 令和7年度収支予算に関する件 第3号 事業団職員給与に関する件 第4号 剰余金の扱いに関する件 第5号 第33回評議員会(臨時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 資料を基に報告
第 3 3 回 評議員会 (臨時)	令和7年 3月26日	評議員 5名 理事2名 監事1名	〔承認事項〕 第1号 令和7年度事業計画に関する件 第2号 令和7年度収支予算に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長の職務執行状況について	原案どおり承認 原案どおり承認 資料を基に報告

(2) 運営委員会

区 分	開催期日等	議 事
第1回	令和6年 7月24日	令和5年度事業報告 令和6年度事業計画
第2回	令和7年 2月27日	令和6年度事業報告 令和7年度事業計画